

育教の兒幼

號一十第 號月一十 卷三十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

菊判全一冊洋綴紙數四百五十頁挿畫百餘
定價金三圓五十錢・送料三十三錢

新刊

最近心理學概說

卷下

文檢必 讀最近 書心理 學漸完成

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗に滿ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發明心理學・個性性格心理學・社會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般的知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の法論・生活論・理論の成立と新しき哲學の暗を受け、教師は生徒兒童の心的體制の理論と教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制の最も即專的なる論理と應用を示され斯くてこそ心理學は科學に資す。振つて萬人の乞必讀。

最近心理學概說

上卷 定價三圓五十錢 送料三十三錢

文學博士 小野島右左雄著

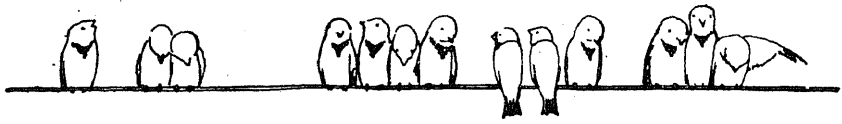
新刊

性格心理學と兒童研究

心理學が兒童研究に及ぼした各種の功績及び心理學が人間の個性調査に性格検査に對した各種の功績は既に述べた通りであるが、最近の業績を見れば、性格検査に對する研究の進展は著しく、その進展に寄與する。されば一般心理學徒及び教育學家爲學者の御必讀

全判價料 一元二角 洋綴紙 五圓二十錢

發行所 東京市牛込區 中野文館書店 電話 振替 東京三三三 八三二 四二七 二五番



號一十第 育 教 の 兒 幼 卷三十三第

—(次 目)—

口 繪

自ら責める心(卷頭).....	倉橋惣三(一)
性格の病理(一).....	青木誠四郎(二)
遊戯による子供の想像教育.....	大石峯雄(二)
十二月の觀察.....	堀 七 藏(二〇)
向寒期の幼児保健.....	廣 瀬 興(二四)
「旅へ」——誘導保育の一案.....	新庄よしこ(二七)
童謠 漫筆 ニコピン草(一).....	仁古貧生(四〇)
たぎりゑの活動寫眞.....	及川ふみ(四〇)
木の葉繪の具々御命名を頂きて.....	岡田せよ(五)
十月號讀後.....	檜 山 京(五)
子供の自由表現に就いて.....	村上露子(五)
「保育の眞諦」を聽きて(二).....	大塚喜一(三)
今月の草花ミ春の用意.....	大 岩 金(三)
雜 錄.....	(六)

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

(刊新)

兒童唱歌七十二曲集

兒童唱歌の基準!! 待望の名曲集漸く成る。

俄然大殺文注
好到評
!す!

こつき・わかくさ・ささぶね・みいちやん・ぶらんこ・たんぼぼ・シヤボンだま・あをがへる・ひよこ・さよなら・つばき・さくら・日の出・すずめのおやど・子ねこ・まりなげ・はしれ・國の祝日・ねむれ・青空・野ぎく・朝・濱邊あるき・つじ・山路・ねむりませう・月・兵隊さん・風車・ご門の電燈・みなしご・冬が来た・氷すべり・蝶々・川遊び・朝風・鯉のぼり・雲雀・池の緋鯉・登山・子雀・星のひかり・山家のちいさん・月のひかり・霧・雪・春景色・田舎道・琵琶湖・夏・山・盆踊・涼しき森・汽車の旅・残れる秋草・小さき星・落葉・郊外の秋・港のにはひ・懐しの友・冬枯・花見・春風・小舟よ・めやめ・松風・懐し我が母・川邊の柳・うれしや我は・清き小川・冬の夜・親の恩

新尋常小學唱歌伴奏解説

全六拾冊
定價各六錢
送料六錢

非常時日本の歌

一部金二錢
送料二錢

日音
本樂
教協
育會

エホンシヤウ力春夏秋冬の卷

定價各册
三十五錢
送料二錢

子供の舞踊

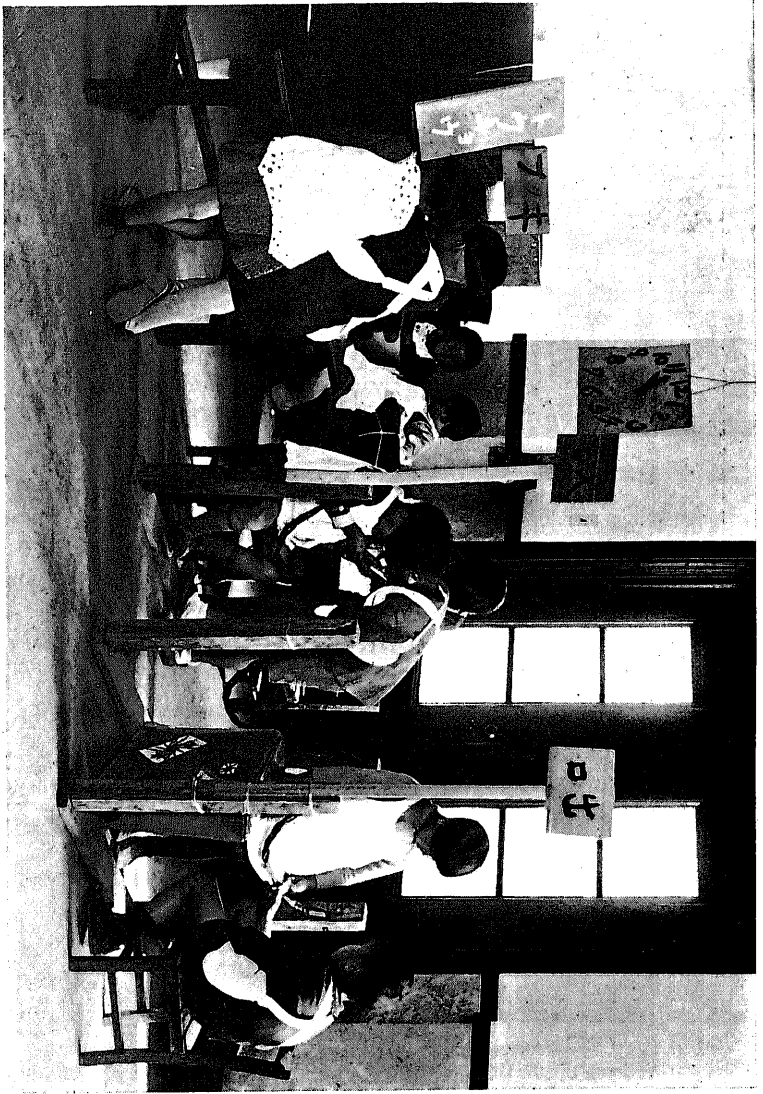
卷一・二低學年用各六拾錢
卷三・四高學年用各金一圓
送料八錢

東京市神田區 三三三 電話 〇七七八 振替 東京市神田區 三三三 電話 〇七七八 音教育書出版協會

菊版洋裝美本
箱入全一冊
定價金壹圓貳拾錢
送料金拾錢



園稚幼屬附…… プツリュチ…き 蔀 種



幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 十 一 月

自 ら 責 め る 心

子どもの性質の中に見つけられる缺點が、あまりにも悉く自分の性質の中にある缺點そのものであるのに気がついて、ぞつこして立ちすくむやうな氣持になるのは、親に屢々ある實感である。組の幼兒と先生との間にも同じやうなこゝは無いものであらうか。悪い子は皆私によく似てゐる。そんな氣のすることは無いものであらうか。

親がわが子を叱るのは自分を叱つてゐるのである。初めこそわが子を責めても見ろ。お前はお前はこゝよそごこのやうに呆れても見たりする。しかし、やがて苦しくなつて来るのは自分自身である。わが子を前に引きすへて置いて、その實いつても、われも自分に身悶えしてゐるのが親である。組の先生には、そんなこゝは全く無いものであらうか。

親はいつでもわが子に濟まないと思つてゐる。先生もきつゝ同じことであらう。

性格の病理 (二)

東京帝國大學助教 青木誠四郎

一、性格異常

第一には性格異常ミ云ふ事は何ふ云ふ事を云ふか。性格異常は或は性格疾病ミ申しませうか。之は子供の例をこつて見ますミ、此處に一人の子供がある。其子供はAミ云ふ子であるミしますミ、此Aミ云ふ子供は勿論他の子供ミ較べて見て違つた處を持つて居る。みんな子供であつても違つた處を持つて居る。其違つた處ミ云ふのは唯一つの點が違つて居る丈ではありませぬ。先づ第一に身體的に、例へば背が高いミか或は瘠せて居るミか肥つて居るミか、或は顔の恰好ミか身體の恰好が違ふミか云ふ様な事が、外形上の其子供の特徴ミ云ふものを我々に示すのでありますが、單に此身體的のもの許りではなくして、精神的なものを、Aミ云ふ子供ミ他の子供ミ較べて見た違ひがあります。頭の働きから云ふても、一つの推理をさせても、其子供は正しく推理するが他の子供は間違ふ。或は多くの子供の間違ふ様な事を、此子供は正しく推理が出来るときか云ふ特徴がある。或は一つの仕事をするとしても早くやる場合ミ遅い場合ミがありますが、他の子供が非常に早いの其子は遅いミ云ふ様なさう云ふ特徴を持つ場合があります。夫は頭の働きであります。感情的のものでも同じであります、一人は或事が起つても怒らないのに、一人は怒るミ云ふ様な事があります、AならAミ云ふ子は他の子供が怒らないのに少しの事に怒るときか、他の子供は非常に沈鬱になつて鬱々ミこむのに、其子供は夫程でないミ云ふ様な特徴がある譯であります。

で斯う云ふ身體並びに精神云ふものが、他の子供に何う云ふ風に違つて居るか云ふ事、之を難しく云ひます。精神物理的、即ち精神と身體との其人に特有の生活の姿を云ふのであります。詰り身體的にも肉體的にも、之を引包めて考へて其人間の特徴云ふものがある譯であります。之を普通個性云ふ名前と呼んで居るのであります。難しく云へば其人間に特有の精神物理的の生活の姿であります。之が普通云ふ個性云ふ事になるのであります。時には斯う云ふものを稱して性格、と呼ぶ事もありますが、一般には我々は個性云ふ様に申して居ります。個性は、其人の其人たる所以であります。其子供の其子供たる所以であります。夫は身體的なものでありませうとも、精神的なもの頭の働きの事でもあれ、感情的のものであれ、さう云ふものを子供の個性、性格云ふ名前をつけて呼んで居る譯であります。であります但其個性を我々が見ます場合に、唯個性云ふものを見て居つたのでは、つきり致しませぬから、其個性をもう少し分析して其問題を分けて考へる云ふ事をやるのであります。

此處に一人の人間がある。此個性を考へるにすれば、一つの面の個性と他の一つの面の個性とが他の人間と違つた所がある、或は此方の個性と其方の個性とが大體分けられるにすれば、夫を分けて考へる云ふ風になつて居る譯であります。さう云ふものの中で人間の頭の働きに關するものを、我々は智能云ふ名で呼んで居りまして、感情並びに意志の働きとは密接して離れざる關係をもつて居りますから、之を我々は情意の個性と申して居ります。而してこの感情並びに意志の個性を指して普通に性格云つて居ります。この性格を見ます場合に一人の子供即ちAと云ふ子供が他の子供と違つて居る事は云ふ迄もないのであります。其違つて居るものが何處もなく變つて居るものがあります。其場合に我々は異常と云ふ言葉を使ふ。或は病的性格と云ふ言葉を使ふ。

然らば異常と云ふのと正常と云ふのとの間に何う云ふ違ひがあるか、其に一つの徴候があつて其徴候を以て正常の子供と病的の性格を持つて居る子供を區別する事が出来るか、と云ふ事を考へさせられるのであります。さう云ふ様な徴候を

我々が考へて見ますと、さうもさう云ふものは先づない云つて差支へない様であります。例へば落着きがない云ふのは之は一つの病的な名付ける可きでありますが、其落着きのないのが何の程度から云つて落着きのない徴候が表はれて来るか、云ふ事を考へて見ますと、此處から向ふが落着きがない病的性格で、こゝから先きが病的性格じやない、云ふ様な徴候らしい一定した境を立てる様なものはありませぬ。結局我々は普通云ふの云ふの、變つて居るの、即ち正常と異常、或は健康と病的云ふ様な事は程度の差でありまして、或一つの徴候云ふものがあつて、夫があれば夫であり、夫がなければ夫でない云ふ様な、性質的なものでない云ふ様に考へた方が正しいのではないかと思ふのであります。此點に就て Engen Kahn が一九三一年に「病的性格」云ふ書物の中で色々な病的なキャラクターを説いて其結論として病的な人格と我々が云ふのは性質上の問題ではなくして量の上の問題である。言ひ換へれば性質ではなくして分量上の問題である。或性質を澤山持つて居れば病的性格と我々が云ふのであつて、其性質を非常に少なく持つて居れば病的性格とは云はない。云ふ様に云つて居るのが之が大體正しい考へ方であらうと思はれます。夫では我々は此病的と健康と云ふ事は唯程度の差であつて、何も其處に之と云つて我々が病的と云ふ事を指す様なものがないか。斯う云ふ事を考へて見ますと強ちさうではないのであります。

いまもう少し立場を換へて考へて見ますと、夫は唯程度の差と云ふ事に止まらないのであります。多少共其處に此處から此方は病的で此處から此方は病的でない、云ふ様な境と云ふものがあるを考へて差支へないのであります。精神分析學派のアルフレッドアドラーは、斯う云ふ性格の問題と云ふ事に就て我々が性格と云ふのは單に現象的なものでなくして、生活課題を解決する努力が精神の表はれとなつて來たもの、生活の課題を解決するのに努力する其働きが精神の表はれとして其處に示されたもの、夫を性格と云ふのである。斯う云ふ事を云つて居る。

こゝに生活課題とは子供が日常の生活をして居る。日常の生活をして居る場合には兎に角一つの課題が與へられて居

る。例へば子供が部屋の中に這入つて自分の仕事を始める云ふ時は、子供は黙つて坐つて居なければならぬ。人話
をせずに、じつと坐つて居なければならぬ。夫は一つの生活課題であります。其生活の課題を自分で解かうとする。夫
が解決の努力であるが、解決する場合に、其人間々々によつて、さう云ふ事に對して表はれて来る精神の表はれ方が違
ふ。或子供は靜かにして居るのに、或子供は隣の子供をつゝいたり、妙な顔をして人を笑はせたりする云ふ様に生活の
現れが違ふのであります。かやうな生活課題解決に對する努力の表れ、夫が性格である。斯う云ふ事を云つて居るのであ
ります。其處で斯う云ふ點から、性格の健康さか、或は病的云ふ事を考へて見ますと、病氣さか、或は異常云ふ事
は、解決の努力をするに拘らず、夫が目的に達する事が出来ない様な形をさる場合で、其目的を達する事が出来ない様な
形をさる時に、夫が日常の色々な生活形態を果す爲に生活の上に差支へを生ずる事を、我々は異常、病的云ふ名前
を付ける事が出来はしなから思ふのであります。詰り其處に斯うやらなければ不可なり云ふ時に、する事が出来な
い。さうする爲に其子供の日常生活に色々の差支へが出来て来る。之が異常さか病的さか云ふものである。斯う考へてよ
いと思つて居ります。でありますからして、異常性格は日常生活に色々の問題を持つて居る云ふ事になりますし、それ
から異常性格云ふ事は問題を持つて居る云ふ許りでなく、困難を有つてゐるものである云ふ事を示して居る云、斯
う云つてよいだらうと思ひます。詰り我々が、日常の生活に處してあたり前に生活して行く事が出来ない程、自分の精神
の状態に喰違ひが来る。之は病的な性格を彼が持つて居る云へて差支へないのであります。

例へば大人の場合で考へるならば、斯う云ふ様にして大勢の人が集つて居る時に、一刻もじつと居る事が出来なく
て、しよつちう貧乏搖をして居る云ふ事があれば、夫はさう大して差支へがある云ふ譯ではないが、一般の隣の人達
に迷惑をかける。即ち其人が生活課題を解決する場合に、旨くして行けない云ふ事を示して居るものである。其處に問
題がある。其處に其人の性格の問題が控へて居る云云つて差支へないのであります。之を子供の場合にまつて見ますと、

例へば落着きがない云ふ、小さい子供は元來活動的なものでありますからして、之がしよつちうじつこして居る、活動しない云ふ事はありうべからざる事である。若し斯う云ふ様に、非常にじつこして居て活動しない云ふ事があつたならば、活動しない點に其子供の異常性格がある云我々は考へなくちやならぬのであります。大體子供は活動する、が併乍ら、一つの仕事をしようとする、時に、落着きがなくて其仕事をじつこやり通す事が出来ない、其爲にものを習ふ事が出来ない、云ふ様になつて參ります。其處に其子供は落着きがない云ふ事になつて自分の日常の生活に差支へを來たす、斯う云ふ様に考へなければならぬ。さう云ふものを、我々は、落着きのない異常性格、病的性格を考へたらよいと思ふのです。

子供の中には懶者云ふのがあります。殊に學校の仕事なんかを非常に不熱心で、少しも勉強しないさいふ子がありますが、さういふのが一種の異常性格であります。併乍ら此異常性格も、子供の遊び好き云ふ爲に懶ける云ふのであれば、夫は當然だに考へなければならぬ。子供は遊ぶ云ふ事は自然である事は皆さん常に經驗していらつしやる事ですが、其遊ぶ、斯う其處らを飛んで歩く云ふ事は當り前の事でありまして、其子供が幼稚園に來て、小學校に行つて、學業の學習をする場合であります。遊びたがつて居る爲に、學業の學習に差支へが來るか、其爲に學校の成績が悪くなつて、さうく落第した云ふ事になる。夫は我々は異常的の性格を持つて居る、斯う考へなければならぬと思ひます。斯う云ふ落着きがない、懶ける云ふ、さう云ふ性質云ふものは、誰でも多分云ふ語弊がありますが、多分に持つて居るものであります。私は懶けない云ふ人があるかもしれないが、大抵の人はさう云ふ性質を持つて居るのであります。こんな所へ來て、小難しい話を聞くよりは、テニスでもやつて居る方がよい云ふ人もありませんが、私は此場合懶者だに考へない、遊び好きだに考へる。學校から歸つて來て、机に向つて、晩迄勉強して御飯を食べて、又勉強して直ぐ寢たなんて子供は、之は餘程珍らしい子供であつて、學校から歸れば直ぐ外を飛んで歩いて遊ぶ、其處でお母さんが

呼び立て、さあ勉強く云ふ様に呼び立て、勉強させる云ふのが當り前なのであります。當り前なのであります。夫にも拘らず勉強しない様な、何うしても暗くならなければ家へ歸つて來ない。家へ歸つて來て直ぐ寢て了ふなんて云ふ、家の子供は勉強しないで困る、何うしたらよいでせう、云ふ事になる。さう云ふのは一種の異常性格を考へて差支へないと思ひます。さう云ふのは、子供の持つて居るものでなくて、外の物指が當嵌るのでありますから、勉強しない云ひましても、田舎の子供は勉強しないでよい境遇に居りますから、東京の子供程、勉強しないで困る云ふ事を考へない。田舎の子供ならば當り前ださしか考へない。低能云ひましても同じであります。低能に對する外からの尺度がありません。或程度以下の子供は低能云ひますが、併乍ら其低能兒は、田舎では困らないが、都會生活をするには困難な危険なものさししなければならぬ。此尺度が違ふのであります。其處で我々は、田舎では餘り低能兒の問題に注意しないが、都會兒童に對しては注意しなければならぬ云ふ事になるのであります。さう云ふ意味で、今申した様な落着きがない、懶ける云ふ、さう云ふ様な事は、何等からの尺度がありません。大體其處の状態によつて決つて來る云つてもよいのであります。夫と同じ意味に於て、物を盗む云ふ様な事は、之は直ちに、盗む事夫自身が一つの異常性格を云つてよいのであります。盗んでもよい云ふ事はありませぬ。人の家のものを一錢もつて來た、盗んだ云ふ事は、大いに悪い事ださししなければならぬ。詰り其子供は、其爲に自分の生活の上に差支へが來る、差支へが其處に表はれて來る譯でありますから、さう云ふものは、一つの異常性格を斯う考へてよい譯であります。さう云ふ様に詰り日常生活の上に差支へを來す云ふ、來すか來さないか云ふ事を標準として、子供の生活を見て、其子供が生活の中に落着きがない云ふ様なものがあつたならば、夫は我々は異常性格、病的性格云ふ様な名前を付けて然るべきものであるを考へられるのであります。

でさう云ふ様に、先づ性格の異常云ふものを考へまして、其性格の異常云ふものを訊ねて見ます云ふ、小さな

ものであれば、例へば、爪を嚙むとか、指を口に入れる云ふ様なものがありますが、之は大人の人でも口の中に手を突込んだりしよつちう口の廻りに手を當てゝ居る人がありますが、甚だ不衛生な危険なことだ云ふ事で、異常性格を認識する事が出来る。さう云ふ、やつちやいけない、さう云ふものを澤山持つて居れば、異常性格云はなければならぬ。さう云ふ事は些細な性格でありますが、大きなものになりますれば、盜癖でありますとか、其處らをぶらつく浮浪癖、小學校の子供にさう云ふのがあります。道草を食ふ、しよつちう店の先に立つて見たり、活動寫眞の看板を見たり、公園で遊んで居て暗くなつてから家に歸る。さう云ふのは生活の上に差支へがあるのであつて、一種の異常性格であります。浮浪癖があつて困る云ふ事を聞く事があります。それ等は、殊に顯著なものである云ふ事が出来るだらうと思ふのであります、異常性格云ふものは、大體さう云ふ風に考へて、子供の現在並びに將來の生活の上に差支へがなければ、我々は何う云ふ性格が表はれても、之を異常性格云はれない。夫が子供の現在並びに將來の生活に差支へがあるものを我々が認める場合には、其子供の性格は異常性格であつて、其子供の性格は適當の處理をして行く。斯う云ふ事がある譯であります。

教育の問題として之を考へて見ますと、種々の性格の教養を致します場合には、家庭の場合にはもつこ細い問題がありますけれども、今日の幼稚園及び小學校では、大體集團的の取扱ひをして居る。多くの場合には、各々の子供の夫々の性格云ふものを問題にした處が夫を取扱ふ事は極めて困難だ云はなくちやならないと思ふのです。各々の子供の性格を調べる事は、勿論試みをしてみた云ふ事にはなりません。又斯う云ふ事をやつて行つたら、子供の力の検査をした表が出来るさか、其性格を調べ上げた一種の表はれば、我々の興味には充分副ふ事が出来ますけれども、各々の例へば保母の持つて居る子供が一組三十人なら三十人、四十人なら四十人の、子供の個性の詳細を検査して、之を指導して行く云ふ事は、知る事が出来ても其指導は非常に困難である。夫は我々が家庭で子供を育てる、そして子供の個性がよく見られる

さしても、夫で凡てをやり直して行くのは困難でありますから、澤山の子供を取扱ふ場合に、個々の子供の性格上の問題を我々が調べて、夫を充分適當に指導して行くに云ふ事は殆ど出来ないに云つて差支へないだらうと思ひます。まあ子供一人一人の取扱ひでなく、集團的の處置をするにしたらば、人数が多くては、十人を越えたら駄目であります。十五人に云ふのが限界だに普通外國の人が云つて居りますけれども、其十五人に云ふに、既に餘程困難でありまして、十人位だつたら此子供は斯う云ふ性格の子だから斯う引張つて行く。此子供は斯うだから斯う云つて進めなければならぬ、に云ふ事を我々は、個々に考へて行く事が出来るでせうが、今の様な澤山の子供に對して夫を行ふ事は我々はとても出来ないのであります。集團の儘でやつて行くより致し方ないのであります。

智能の問題でもさうでありまして、頭の程度を細かく検査しましても、此子供は此程度をもつて居る、だから此子は理解出来るが此子は理解出来ない、さう云ふ細かい取扱ひに云ふものは殆ど出来ないに云つて差支へないだらうと思ふのです。私は五十人もつて居りますが個々にさうして居りますなんに云ふ人があつたら、驚くべき天才であつて、其人は出来ても外の人は眞似は出来ない。私の考では今日の日本の様な人口の一年に百萬人も殖える状態では、一學級の人員を十五人にする二十人にするに云ふ事は出来得べき事でない。其處で、全體の集團的の取扱ひに就ての研究を積むさいふ事が一つの研究の題目でありませうし、もう一つは、集團の取扱ひをさうしたならば、我々は其子供の中に今云つた様な現在並びに將來の生活に差支へのある様な性格に云ふものは、出来る丈之を早く除いてやる適當な方法を講じて、其子供の爲に處置をして、其差支へを少くしてやるに云ふ事が將來の子供の爲に重大な關係をもつて居る。其點位の處に目標をおいて、普通の子供は普通の生活に應ずる様にしてやる。變つて居る子供は、其子供が當り前の生活に、普通の子供に直して行くに云ふ様な事をするのが、先づ現在の世界なり、我國の幼稚園なり、小學校なりの問題にすべき事ではないかと思ふのであります。

個性の調査といふ事を喧しく申しましても、現在の小學校や幼稚園に於て、精密にやつて精密に利用して行く事は出来ない云つてはいけなうが、少くも困難であります。だから餘り慾ばらないで、出来損はない様に云ふ事を念としてやつて、頂いたならば、後は親が之を引受けるなり、子供の將來の發達に備へる。況してさう云ふ意味に於て、學校なり幼稚園なりが、子供の間違つた性格云ふものを其處で作つたんで云ふ事になつたら申譯ない事になると思ひます。今の學校は往々にしてさう云ふ事があるので、學校へ行つた爲に子供が悪くなつた云ふ事があるのを聞くのであります。さう云ふ事があつてはならない。あつてはならないと同時に、若しあつたら夫を直してやる云ふ態度に、我々が自分の性格教養云ふものを、先づ程度を低めて考へて行くべきものじやないかと思ふ。其意味に於て、我々が異常性格を考へる云ふ事は、實際の幼稚園なり、實際の小學校なりに離れざる或ものがあるじやないかと思ふのであります。私は此處三年許り、色んなさう云ふ子供を取扱つて居るのであります。さう云ふ子供は實に澤山あるので、まあ我々の様にさう云ふの許りを取扱つて居るさ、他處の子供が皆さう云ふ様に見えるのであります。さうでなくても之は少いものではない。私の持つて居る子供は、一人も斯う云ふのが無くて、何にもしないでよいなんて云ふのであつたら、氣が付かないのだ見逃して居るのだが何も考へないものだから、云ふ様な事でなかつたら幸ひだと思ふのであります。以上で私は、性格異常云ふ事が何う云ふものであるか云ふ事、それから何う云ふ意味に於て我々が性格異常云ふ事を見て行くか云ふ事、もう一つは此性格異常云ふものが、現在の我國の幼兒の教育の上に、重要な意味をもつて居るのだ云ふ事を簡單にお話して見たのであります。

(以下次號)

遊戯による子供の想像教育

東京女子高等師範學校講師

大石 峯 雄

ヒッベルが嘗て、「想像は心の肺臓である」。云ふ味ふべき意味の言葉を我々に與へたことがある。

この譬喩的な言葉は實によく想像の本質を價值を説明してゐるやうに思ふ。想像はまことに精神ソールの力であり、それによつて總ての心の力は生命に充ちた息をするこゝが出来るのである。思索には理解の働きが基礎として必要であるやうに、想像は又理解の基礎となり、必要條件ともなるのである。かゝる意味に於て詩人ゲーテは、

「想像こそは實に思索への入門である」。述べてゐる。

想像を以て「心に描く思索」であるミ端的に呼んでゐる人がある。これは更にゲーテの

「我が思索は直観であり、我が直観は思索である」。

云ふ言葉によつて明かにせられ、簡明にまことの意味が表はされてゐるやうに思ふ。

彼のこの言葉は、總てのすぐれた藝術家や天才の精神の姿を示すものであり、同時に具體的なもののみ考への途を進め、少しも抽象的な働きを表はさないところの子供の精神の様相でもある。併しながら想像は又理解に依存してゐる。理解了解は想像の形象をばはつきりさせ、區切りをつけ、瞬時にして漠然としたものを排除し、更に又誤つた想像に走るこゝを防ぎ、いたずらに盲想にふける云ふやうなこゝをさしこめる。記憶の要素として、言語、形象、音調等が考へられるが、心の奥底から出たこゝの想像は、是等の記憶にまつて最も必要な基礎をなすものである。感情の方面でも

想像によつてその熱情及び最も心の深きところにあるものを感じるにいたらしめるものである。更に意志ですら想像に依つて非常な影響を受け、一度意志によつて決斷せられるや、それに對して敢然と實行するやうにまで想像の力は及ぶ。かくして、健全にして正しき想像の働きのないところでは、充分なる精神生活ガイヌス・スレーベンをば考へるこゝすら出来ないこゝ云つてもよいであらう。

二

子供の精神の發達に對して想像はかくの如く重要な意味を持つてゐるのであるが、然らば如何なる手段を以てその正しい教育をなすべきであるか云ふこゝが、今や吾々の當面の問題となつて來るのである。想像を發展させるにはいろいろの方途が考へられるであらうが、私はこゝで特に遊戲運動によつて子供の想像を教育せんこゝに専ら關心を置くこゝにしよう。勿論、想像を發展させるために如何なる手段を以てするにせよ、秩序ある想像教育一般に對して重要な要素は有能なる人格であり、然も自らの教職に對して眞劍に働きかける人格であるこゝを考へなければならぬ。従つて私が之から述べようこゝもこの要素が前提をなすのである。

正しい運動遊戲ツルンシュピール——此の言葉はヨハン・マルケルの著「遊戲運動小篇」によく出て來るのであるが、——に於て、子供は自らを表現し、表現するこゝによつて彼等の世界を更に想像する。即ちこゝに於ては教師から受ける壓迫さか束縛さを完全に無くした状態に於て自らを表現し、そして喜びに満ちた活動さ、心からなる運動をなし、かくして子供の想像力は充分に發揮されるのである。そこで先づ第一に動物運動の模倣——蛙のミビまね、兎の走り方、馬の歩き振り、小犬や猫の運動、猿のさまぐの動き、泰山のやうな象、さてはカンガルーの姿態等舉ぐれば無數にあるであらう——を行はせ、次に手業のやうに人間生活の中にあらはれた一場面をば、子供達の目に映じた總ての活動的な交渉を遊戲化した表現形式に於て模倣し、従つて子供達に想像を働かすための機會を豊富に與へるこゝが出来ぬ。又小さい子供達に取つて最も楽しい

童話や物語を聞いたり話したりする中に、子供達は何の工作も又技巧もなく全く物語中の人物となる。或は又それに關係する動物——ときには草木すら生かして——等に完全に成り切つて、(主客が完全に合一する)こゝにはない、無限に伸び行く彼等の世界を想像し、遊戯的に表現する。かくして子供の想像の發展に對して最も價値あるものであり、將に束縛から放たれた子供の心を目ざますものでもあり得る。唱歌を加へることは、それによつて更に想像の動きを促進せしめ、併せて表現させる云うやうな役割を持つのであると思ふ。

以上述べたやうに、運動遊戯によつて子供の自由な想像を發展させる企圖を、私は實際に見たり聞いた事によつて更に補つて見たい。話は今年の夏、本幼稚園協會によつて企てられた講習中に於ける戸倉先生の體驗談を、それをひそかに見てゐた私の感想を織り交ぜたものであつて、恐らくこうした事柄は實際幼児と共に生活せられる諸先生は日常茶飯の出來事であり、或は更にすぐれた實例も尠くないと思はれるが、僅かに一例として擧げてみたいと思ふ。

戸倉先生の遊戯の講習で先づ第一に目についたことは動物の動きのまねであつた。先生は先生の考へ又は運動形式を子供に模倣させる云ふやうな方法を全く棄てられた。その意圖は、子供が動物園や公園やその他あらゆる場所で動物について動作を直観し、而も彼等に於て動物になり切るだけの自己放射性を見、自らを完全に動物にまでうつし込むべき動物と子供は一體になり、それだけに益々直観は深くなり、さながら天才のそれにも比することが出来るやうになるであらう云ふ意圖からであつたやうに思はれる。更に云へば、想像の發展は束縛をなくし、自分自らをも總てなげ出すところから自由な世界が開かれるであらう云ふやうな考へからであつたかも知れない。題材は「象」であつた。先生のうまい誘導で彼等の想像は次第に象の世界に變りはじめた。彼等は先生達の前でそれを表現したではないか。「象におなりなさい」を仰有られたとき、そこには全く人の子ならぬ群象のそり／＼と歩き初めた。中には大きな鼻をまき上げるものもゐた。先生は又一言、「象はもつ／＼と／＼と歩きますね」。云はれた。子供には何の姿態も教へられなかつた。さうする

だらうかま心待ちに見てゐた。兩足を以て足首をつかみ、さながら大きな象の現はれのやうであつた。——私はこゝで多少不思議に思へた。小さな子供達の象の表現でも、象になり切るこゝが深ければ深い程、大きい象に感ぜられる。心の表現は外形的な姿の大きさによるのではないとすら思へた。——こうして彼等は象を想像してゐるのであらう。想像しながら嘗て見た象の姿を再現し、益々象に深くなり切つてゐる。然るに同じ講習會で大人にもさせてゐられたのを私は見た。こゝろが大人が試みた象はてんで彼等子供達の足もこにもよりつけなかつた。恐らく大人は象になり切れないからであらう。動物の心になるにはあまりに有邪氣でなかつたらうか。心の表現は正しく外に表はれる姿であり、顯現する様相である。少しく冗長になりすぎるけれども更に一例を書くこゝにしよう。之も同じく戸倉先生から話されたこゝである。時は今年の夏、こゝろは東京女子高等師範學校附屬幼稚園。題材は私共の言葉に譯して見るに、「植物が芽を出して、それが大きくなり、花を開き、そこに美しい蝶が春を唄ひながら花に憩ふ」云ふやうな場面」を表現させ度い云ふ意圖からであつた。こゝろは「種を蒔きますよ」。先生はばら／＼種を蒔く、耕された畑の土の上に籠の中からまかれた種を子供達はもう想像し始めた貌があつた。子供はこゝろ／＼種になつてこゝろ／＼にこゝろ／＼、あちらにこゝろ／＼した。種には未だ土がかけられてゐなかつた。先生は「まだ立てつてゐる種がありますから、今度は土をかけますよ」。云はれる。ばら／＼ばら／＼土がかけられる。子供は土の重りで見んな體を小さくして、すくんでしまつた。雨が降つて来る。水もかけられた。ぽか／＼太陽の光が、かけられた土を通して種にあたつて来る。そこで種はそろ／＼ふくらみ初めました。かぶさつた土をかきつけて子供達の種は伸びて行くではないか。むく／＼と、大きく伸びてしまつたのもあり、未だ充分伸びてゐないものもある。見てゐる中に五つ六つ花が開き初めた。あたかも蝶の憩をまつばかりにして、こゝろで先生はきれいに咲いた花を五つ六つ残して、他の子供達に「蝶になりませう」と話された。蝶は両手のはねをたゞいて、あたかも春の野に花を尋ねる姿そのものであつた。花を見つけてそつ／＼まる。又他の花にも靜かにいこふ。……こうしてゐる子供達の生活を考へて見るに、

今書いてゐるそのこゝすら子供になり切れない私、まして植物になつたり蝶になつたりするこゝは可成にかけはなれてゐる私には、物足りない、子供らしくない、こゝによる大人じみた考へ方で想像をめぐらすこゝ云ふやうな心配すら持つのであるが、敢てこうした子供の運動遊戯を考へて見るこゝ、彼等は遊びながら想像し、子供の想像は更に動物をも靈化し、従つてそのものミ一體になり、又動物になつたにしても、或は花を、或は野を、或は自らの姿態をミ、要するに彼等がこれまで経験したあらゆる周囲の姿(周囲ミは大人の考へで子供達には全く合一したものであるかも知れぬ。そして主客未分ミ云つてもよいかもしれない)。を想像してゐる。想像は教へるものではない。従つて遊戯も又いたづらに教へるものでないこゝが私はお話ですつかり理解出来たやうに思へる。大人はさうしても子供のこうした直観には及ばないであらう。假令、直観出来たこゝでも抽象的なものに終るこゝが多い。

三

言葉や遊戯ミ云ふ裝飾によつて所作を變更し、變化し、或はありふれた物語や童話を變改し、更に子供のそのまゝの世界にまで作りかへ、或はそれを廣げるこゝ云ふやうに、想像に對して自由な領域ミ充分なる餘地を與へるこゝの子供の遊戯こそは望ましくもあり、又すぐれたものであると思ふ。例へば「城攻め」ミ云ふやうなもので説明して見やう。此の「城攻め」では大てい肉弾戦が行はれてゐたのであつたが、子供達が今日のやうにボールをよく使用するやうになつたこゝろでは、「お城」に手でボールをなげるか、又は足でボールを蹴るかし、「お城」の中で守つてゐる人々はその攻撃に對して己が城を固守するこゝ云ふやうにするこゝが出来る。同様にしてよく行はれてゐるこゝろの「鬼^{テイル}つこ」ミ云ふやうなものを子供達の力でいろく^{テイル}に變更させるこゝが出来る。又 虎^{テイル} ボール等はよく獨逸あたりで行はれてゐるやうであるが、子供に相當したやうに、例へば一匹の「虎」がおりの中に走つて居り、おりになつてゐる子供達が此の虎にボールを投げる遊戯ミして行はせるこゝが出来る。一匹の虎の代りに「親虎」ミ「子虎」の改正を考へてもよい。いづれにしてもこうした遊び

は半人工的、半自然的と云ふやうなものであるけれども、此の際子供は猫になつたり、鼠のちよろ／＼した走り方にもすぐなれる。虎になれば虎の姿を具へ、獅子になれば獅子の威厳すら持つこゝが出来来る。だからこんな半人工的な遊戯でも、單なるボールの遊びとさせ度くはない。何にでもなり切れるこゝこそは子供に與へられた唯一の世界であり、大人には模し得ないこゝろである。或る人が「年のへだたりはかくまで直觀の世界にへだたりを作るものであらうか」。と云つて歎息したのを聞いたこゝろがある。繰返して云ふやうではあるが自分と周圍とが同一になるこゝろに子供の想像は自由に發展し、心の力さなるこゝろの想像は遊ぶこゝろによつて生きた形となつて成長するのである。

此の發展に於て、吾々は——勿論それが可能である限り——ゲーテの

「子供は教へられるよりも、よく活氣あるものを慾するのである」。

と云ふ説明に従つて、私共は子供を本當に伸して行き度いものである。

幼児や小學校の最下級生に對して彼等の自由な想像作用を壓へ、束縛するときは、イギリスでよく見られるやうな、律則づくめのボール遊びをするに云ふやうな珍現象が見られるであらう。運動遊戯が完全に作り上げられた競争遊戯としてその最も高い程度の完全さになるときは、下級の兒童と幼児には不適當であり、かゝるこゝろを強制するときは此の時代の最も自由な想像の發展を妨げ、就中それが成熟せる大人を前提としてゐる限り全く何の役にも立たないのである。

四

更に健全なる想像教育に對して、子供達が共働するこゝろ、遊戯道具が簡單であるに云ふこゝろが大切である。此の二つは、夢想的であつて然も想像的な子供には、人間及び物について彼等の想像力が伸びて行く限り有效なものであり、次第々々に現實的なものについて考へ、現實的な觀察法に達するこゝろに對して役立つものである。

特に團體遊戯(社會的運動遊戯)が一面に於て持つこゝろの特色は、結局團體的運動遊戯に於て共同して遊戯する遊び仲

間に對して對人的に多方的な交渉を與へる機會を多分に持つてゐる云ふことである。又遊戯道具にしても、自らは何の努力をなすことなく、又己が才能を殆んど現はす必要がない程の美しい完全なる玩具が充滿してゐる倉庫の中に居るものにも比すことが出来る子供の側からすれば、何等活動することなく嘆美と享樂を感じるやうな道具(例へば機械的にひき上げるこま)が出来る玩具、鐵道がついて自動的に走る汽車、或は又自動車(の如き)は彼等の遊戯に對して役立つであらう云ふやうな皮相的な考へをば反省しなくてはならないと思ふ。子供の想像は簡單なる玩具(遊戯道具)から健全なる榮養を取るこまが出来る。だからゲーテも、

「余は想像を破壊するほどの贅澤な玩具を憎む」。

こま云ひ、イエン・パウエルも亦

「豊富なる現實に於て想像はおこらへ、従つてその芽生すら萎み行くであらう」。

こまにてゲーテに賛意をよせて居る。子供の遊戯體操シユビールツルネンに對する簡單な道具として次のやうなものが考へられる。即ち種々なる大きさのボール、小さな木棒、跳繩、振繩、引綱等々がある。

こまで最も重要なものは四千年以前既にエジプトの少女たちに嬉ばれ、恐らく地球上いたるこまで何等かの形式に於て見られるこまのものは毬(ボール)である。大きな子供達が使用するこまの毬は競技規則の實行を可能ならしめるこまの補助手段である。小さな子供は之に反對に、ボールに於て本當の遊戯の原理を見出すのである。子供達が、それを持つて心からなる喜悅を以て活動するこまが出来るこまの遊戯道具は、彼等に活動性への刺激と活動性への可能性を與へる。

遊戯道具は子供達に對して種々なる物のシンボルとなすこまが出来る。例へば卵を象徴して「巢の中に卵を入れる」やう

な遊びに使ふこゝが出来、切符を以て「鐵道遊び」「電車の車掌さん」云ふやうな遊戯に使用することも出来る。

攀登梯子は同様な意味に於て子供の想像を刺戟することになる。例へば子供にそれに登ることによつて消防夫の働き、屋根屋、果物取り、等々の働きを考へさせることが出来る。

かくして簡單なる道具は、既に完全なものとして、又は出来上つたものとしての遊戯におち入ることなく、寧ろ或るものに芽ばへさせるこゝろの遊戯として發展する。子供はこの道具によつて刺戟を感じ、又は生氣をも感ずるのである。かくて古い遊びがその補助手段を尊重したのミ全く異つて道具を見るにいたる。それはあたかも信頼し、愛すべき遊び仲間であるかのやうに、道具を以て計畫し、道具を以て従事する。

以上吾々が見たやうに遊戯運動は子供の想像教育に對して最もすぐれたものゝ中の一つであると思ふ。然もこゝでは子供に即し、上品であつて高貴な想像教育の機會が非常に多く含まれてゐるのである。併しながら總ての遊戯が例外なくすぐれた想像教育の手段であるミは考へられない。成程遊戯が想像教育に對して價値ある根據として、精神作用による壓迫なき状態に置かれ、従つてそこでは最も衝動的に、最も本能的に活動することが出来、彼等の要求水準が高まつて行くにつれ興味は更に加るミ云ふやうなこゝが考へられ、この間は總て自由なるが故に想像は極めて自由に發展するであらうとも考へられる。併し私は最初に想像の本質ミ價値ミを述べた際に、「秩序ある想像教育」ミ云ふ言葉を使つておいた。子供には子供としての「秩序」があり、それ故に「渾沌」ではない。子供としての「秩序」から子供の眞に正しい想像は發展する。而して子供としての「秩序」を保たしめるものはさうしても教育者の任務である。わづらはしいが一例を取る。遊戯に於ける教師の任務は植木屋に比すこゝが出来る。想像ミ云ふ木が伸びるのは子供自身である。木の中にはどんな形で伸び、どんな大きさになり得るかの素質の全てを具へてゐる。植木師の仕事は、その素質が完全に伸びるやうに、本當に正しく伸びるやうに外から守り、發育、成長に邪魔ミなるものがあれば取り除き、肥料を與へ、環境をよくするミいふ任務を持つて

居る。彼は或る意味で方向所與的な仕事すら持つてゐることもある。素質自らは比較的渾沌に近いと云つてもよい。この比較的渾沌の状態は植木師によつて、秩序を保つやうに仕向けられる。植木師がすぐれて居れば秀れてゐるほゞ、その木に即した、従つてその子供としての秩序を保たせることが出来るのである。此の關係から考察するに私はこゝに再び最初に述べたところの前提に立ち戻ることを許されたい。

秩序ある想像教育一般に對して最も重要な要素は人格である。眞に遊戯運動をば想像教育の手段として價値あらしめるものは教育者自らの「教育者的堪能」により、又これをも併せた教育者自身の人格でなければならぬ。

教職に對して眞剣に働きかける人格こそは遊戯運動による想像教育の唯一の前提であらう。想像の價値、想像の本質を認識しないところの教育者が、さうして遊戯による想像教育をなすことが出来るであらうか。(終り)

十二月の觀察

堀 七 藏

一

十二月に入つて觀察させるべきものがいろいろある。枇杷の花でも八つ手の花でも亦さいんくわの花でも更に水仙・福壽草なども十一月から十二月にかけて觀察せらるべきものである。椿の蕾には葉の芽と花の芽とがはつきり分る。桐の芽も亦同様で、花の蕾は澤山房のやうについてゐるが、葉の芽は枝の先端についてゐて一寸氣がつかぬ。さくらでもまたうめでも芽を觀察させるもよい。しかし芽について六ヶしいこを説明するのではない。落葉して枯木の如くなつてゐる樹木でも本當に枯れてゐるのではないこもや、春になつて咲く奇麗な花が蕾になつて冬を越すこもや、その蕾が所謂芽で、冬の寒氣に堪えるやうに保護せられてゐるこもなきを、説明するのではなく樹木を觀察さ

せてそれを成程に認識させるのである。多くの草は種子になつて冬を越すが、また地下莖や根に養分を貯へて翌春、それから芽を出すこも、ダリヤミか菊こかいもなきで直觀察せるがよい。

二

動物が冬を越す有様を觀察させるこもが出来るこ面白い。尤もこれは十一月、十二月になつて森の中を歩いたり、地面を掘つたりするこ、成程に思はれるものを見つけられるものである。蛙が土中にひそんでゐたり、蝸牛が落葉の中に埋れてゐたりするし、またいろいろの蟲の卵なきを見付けだすものである。是等も動物の冬眠なきを説明するのではなく、幼児が土いぢりなきをしてゐたりして見つけたなきに觀察させるだけのこである。

十二月になると、小鳥なぎが人家近くに多く来るから、十一月の觀察で述べたやうに小鳥を繼續して觀察させるこよい。若し雪が降れば小鳥や犬・猫・兎なぎの足あみを觀察させるのも面白い。

三

びは(枇杷)は常緑の喬木で、莖の高さは十メートルにも達するものである。葉は長大なる長い楕圓形で、鋸齒があり、下面には褐色の毛が密に生じてゐる。花は十一月から十二月の初に咲き白色である。花軸も花梗も褐色の毛が多い。單瓣花で、花瓣が五枚ある。小さな花であるが、白いで目立ち、一種のよい香がある。

やつでも秋の末に小花を球狀に開くものである。淡黄白色で、花瓣が五枚あつて雄蕊が五本ある。花が散つた後に青い實が出来、熟して黒色になる。よくやつでに花が咲かないものご誤解する人がある。

やつでは常緑の灌木で、通常庭園に栽培せられる。幹の高さ二三メートルになる。一根より幹が叢生する。葉は長い太い柄があつて掌狀に分裂してゐる。やつで、さいふから

八枚になつてゐるご思ふご誤である。幾枚もの葉について幼児に數へさせるもよい。やつでの葉は頗る大きく厚く深縁にして光澤に富むものである。葉が著しいためにやつでは葉だけご思へば誤である。花の大きな蕾が出来て苞に包まれてゐるが、苞がされて穂が出で、分岐して小花を球狀に開くものである。

なんてんは難を轉するものご解せられ、通常庭園に栽植せられるもので、常緑の灌木である。莖の高さは通常一メートル餘であるが、大きなものは三メートルにもなる。葉は披針形の小葉より成る數回羽狀複葉で、葉柄の基脚は葉を包んでゐる。花は圓錐花序に排列し、小さく初夏に咲き、白色である。果實は球形で熟すれば通常赤色を呈し、誠に奇麗であるから十二月から一月にかけて賞用せられる。

四

葉を新年のお飾りに用ひるゆづりは、山中に自生する常緑喬木である。高さは五六メートルに達し、葉は大形の長楕圓形で、通常二十厘位ある。厚く滑かで、裏面は淡白色を帯び、葉柄は赤い。ゆづりは、五月頃綠黄色の細小花が

穂になつて咲く。雌雄異株である。

うらじろの葉も歳首の裝飾に使はれる。暖地に自生する大形の多年生草本である。大なるものは一メートル餘に及び、葉は羽狀に分裂し、上面に鮮綠色にして光澤があり裏面は白色を呈するものでその名がある。春夏の候、顆粒状をなせる子嚢を生ずるものである。

だいだいは代々ミ音が通ずるから矢張お正月のお飾りに使はれる。常緑の喬木で、暖地に栽培せられる。高さ三メートル餘に達するものである。葉は互生で卵形を呈し、葉柄に翅を有し、其尖端に關節がある。みかん、なつみかんなどと同じである。梢上葉腋に初夏白色の花を開く。五瓣花である。果實は冬日熟して黄色ミなるが、樹上に止まつて翌年の夏になるミ、増大して再び綠色を帯びるものである。

五

こんぶは子産婦ミもよろこんぶミも考へ、お正月のお飾りは勿論、お祝儀に使用せられる。まこんぶ、一名こんぶは褐藻類で、陸前金華山より北海道函館の間に生ずる。長さ二メートル位より六メートル位に達し、その幅は三十糎もあつる長大種である。葉質厚く、革質柔靱である。莖は短く圓

柱狀にして、その下端が分岐して根になつてゐる。こんぶの葉縁は粗き波狀を呈してゐる。北海道西海岸に産する一種いしりこんぶは味美にして細い。

ながこんぶはまたみつしいしこんぶ、さもいふ。千島より釧路のものをなかこんぶ、さいひ、釧路より室蘭邊迄のものをついしこんぶ、さいふ。葉は狭長なる帶狀をなし黒褐色である。幅は十糎位で、長さは六七メートルに達し、縁は多少波狀をなすものである。胞子は専ら一方の面にのみ生ずるさいふ。

六

ふくじゆさうはその名稱が福壽草なるミ、冬開花するミによつて、梅ミ共にお正月の盆栽に珍重せられる。北地に自生するミが多いが、普通に培養する多年生草本である。葉は十糎から十五六糎位に伸び、二回羽狀葉で、その小葉は深裂し、裂片更に亦鋭尖頭なる線狀披針形の小裂片をなすものである。新葉ミ共に花を開くものである。瘦せたものは一莖に一花、肥えたものは分枝數花を開く。萼片は暗紫色を帯び、花瓣は多數である。黄色である。ふくじゆさうはうまのあしがた科の植物である。

すゝせんもお正月から二三月にかけて觀賞せられる。通常觀賞用として庭園に培養せらるゝ多年生草本である。莖は卵狀球形をなし、外皮黒く、下に白色の鬚根を出す。葉は狹長にして線狀を呈し。鈍頭をなす。帯白綠色にして厚い。葉中より高さ二十糎乃至三十糎内外の花莖が出て、莖頂に膜苞があつて數花を出すものである。花は白色で六片に分れ、下は長き筒形をしてゐる。喉口に濃黄色の副冠がある。子房は下位にして、花後通常成熟せぬから果實が出来ない。

七

十二月にもなれば保育室には、火鉢よりストーブなり、またスチームなりが入るから、是等に對する注意を與へるに共に、いろいろ、觀察させるべきこゝが多い。

火鉢では十能も火箸も、また火ご灰なごも觀察させ、火鉢が何から出来てゐるかも觀察させるがよい。また火鉢で燃やす木炭の觀察もさせねばならぬ。木炭がどんなになつてゐるか、木炭をいぢるご手がどんなになるか、木炭で字がかけるとき、木炭が燃えるごき皮がはぢくごこがあるこ

ご、木炭に火をおこすごきごんなにするか等を觀察させるがよい。更にお庭で落葉を集めて火をつけて燃やし、そのごき生ずる煙、焔等を觀察させるがよい、そして木炭が燃えるごきご比較せしめねばならぬ。勿論火いぢりをせぬごきや火鉢に對する注意なごも與へねばならぬ。

ストーブを使用する保育室では、ストーブの觀察を行はしめねばならぬ、ごこから石炭を入れるか、ごこから灰を出すか、ごこから風が入るか、ごこから煙が出るか、石炭はごんなものか、木炭ごごんなにちがふか等を觀察させ、ストーブに對する注意を喚起せねばならぬ。

スチームで保育室の暖房をなす場合に於ても、スチームの觀察をさせねばならぬ。そして一般に暖房裝置の附近で騒がぬごこ、危険なごきをなごご等を注意するご共に、暖房裝置があるごきの衛生事項について幼兒の生活を統制せねばならぬ。あまり暖房裝置に近寄らぬごこ、暖い室から急に寒い外氣に觸れないごこ、しもやけの手足を暖房裝置でぢかに暖めないごこ、常に鼻で呼吸するごこ、鼻孔が塞らぬやうになすごこ等、冬の保育室に於ける生活を統制してやらねばならぬ。

向寒期の幼児保健

醫學博士 廣 瀨 興

一般に、小兒の保健に重要な影響を與ふるものは先づ、榮養と氣候とであるが、而して、一年を通して最もこの兩者に注意を要するときは、梅雨期と嚴寒期とであらう。梅雨期は溫度、濕度共に高く、體內に鬱熱の状態の生じ易く、引いて、新陳代謝の障礙を來し、消化不良の原因となる。我國は四面海に圍る島國であるため、七月頃は最も高温高濕のため消化不良を來し、死亡する乳兒は極めて夥しい數である。幼兒に於ても同様である。

之に反して、冬期は空氣乾燥し、氣溫低く且つ室の内外の溫差甚しく、ために呼吸器の粘液は強く刺戟せられて、發赤腫脹して、「カタル」を起し易い。尙、冬期は新鮮の野菜不足し、且つ日光弱く紫外線僅少のため、各種のビタミン缺乏して、疾病に對する抵抗力薄弱となる。特に平素體質の弱い小兒はために皮膚には「ひび」「あかぎれ」「しも

やけ」を生じ、感冒、氣管枝カタル、扁桃腺炎、肺炎、デフテリー、百日咳等に罹患するに至る。榮養と氣候即ち日光、空氣、氣溫、濕度、氣流は互に密接なる關係を以て小兒の健康に重要な影響を及してゐるのである。

其故、冬期に於て是等の疾患を豫防せんには秋期より種々の心掛を必要とするのであつて若し嚴寒の候にもなれば時既に遅いのである。

一般の衛生としては秋の頃より成るべく薄着の習慣をつけておくこと、靴下も短いもの、晴天で無風の時は腕出しシャツに、短いパンツで戶外運動をさせる。體質の平素弱い小兒、即ち皮膚の榮養の悪い過敏の小兒即ち皮膚の光澤なく、脂肪氣に乏しく、乾からびてざらつくし、色も蒼白く、少し寒い風に當てるに顔色急に蒼ざめ、毛孔が立ち、唇が紫色に變ずるが如き小兒、かゝる小兒は又「ひび」「あか

ざれ」或は「しもやけ」に罹り易い。かゝる小兒は丈夫の小兒の如く、直ちに積極的の處置は取れない。日光浴も室内で窓よりさし込む日光に足部さか、手腕さか一小部分を短時間、例へば五分さか十分さか直射させるが如くして漸次大部分を長時三十分行はしめる様に試みる。

日光浴の秘結は成るべく無風の時、短時、小部分より、極めて徐々に直射日光に曝露せしめること、蔭の部分をよく毛布に包むこと、施行前に一杯の生水を飲むこと、深呼吸して冷空氣に馴れしめておくこと、施行後よく硼酸水にて含嗽することゝを忘れてはならない。

「しもやけ」の毎年生ずる小兒は秋より日光浴、毎夜、手足を耐えられ得る熱さのヌカ浴せしめること、肝油を飲用せしめること、鰯、にしん、卵黃、しひたけ、牛乳等のヅキタミンA、Dの豊富のものを與へることが肝要である。これ等の注意は同時に感冒、其他の呼吸器病の豫防さもなるのである。

冷水摩擦は幼兒には仲々困難であるから、入浴後よく皮膚を乾布にて摩擦するのみにても效がある。就床時必ず寝

衣に更衣せしめる習慣は大切である。

日本家屋は通風のよいため冬期は乾燥し易い故、幼稚園託兒所に於てストーブ、火鉢等の暖房装置のある室は常に適度の湿度を保たしめねばならぬ。最も適度なるは若し、室の窓が閉められ、無風であるなれば湿度計の濕球温度が華氏五十六度の時で、これよりも湿度が低くなれば蒸氣を必要とし、反對に湿度が増してくれば室内の通風をよくしてやらねばならない、即ち六十八度に温度が昇れば風速一分間に五百呎を要する割合である（一般に湿度計を使用することゝを奨励したい）。

若し室内が乾燥すること塵埃も立ち一層氣管の粘膜を刺戟し、扁桃腺の腫脹を招來し、デフテリー、百日咳の誘因となる。保育室、遊戯室の掃除には必ず、濡つた鋸屑又は茶殻を散布して後、行ふべきである。扁桃腺肥大の原因が、遊戯室の塵埃に關係のあることを實驗的に證明した學者もある位である。

デフテリーは秋より冬にかけて多い小兒傳染病であつてデフテリー菌が扁桃腺や喉頭や鼻腔粘膜に附着繁殖し、其

毒素を全身に傳播せしめ、遂ひには心臓衰弱に迄、進行せしめるに至るのである。近來、デフテリーは豫防注射が完全せられた故、必ず保護者に奨めて實施するがよい。何等の副作用も來すことなく極めて安全である。デフテリーは罹患すれば直ちに治療血清を注射するのであるがこれは二十四時間を經過せざれば效が現はれず、その間、若しデフテリー義膜を稱する細菌性の苦狀物が喉頭を閉鎖し窒息せしめるに至る。其故、本病は特に一刻も早く診斷を下す必要がある。

後に引く犬の遠吠様の特有の咳嗽を發見せるときは直ちに隔離せしめねばならぬ。又、口腔を検して扁桃腺に苔狀物を發見せるときは、直ちに一應醫師に相談すべきである。

百日咳は幼児期呼吸器病中、最も苦心する疾病であるが、これも可及的早期に發見して登園禁止せねば、遂ひには全園児に慢延の恐るべき状態を來すであらう。本病は多くは無熱で、夜間漸次増加する咳嗽で始まる。次いで發作性後退性の咳に進行し、咳のため眼充血、軽度の眼瞼浮腫、粘液の吐出、嘔吐を來す。晝間も舌壓子の如きで咽腔に刺

戟を與へる。前述の如き特有の咳を爲すによつて診斷を下し得ることがある。

百日咳の豫防注射も相當の效ある故に行ふべきである。罹患せるものは嘔吐のため栄養不足を來す故、若し吐出せるときは再び食事せしめること。殊にビタミンBを與ふること。衣服、室内を日光によく曝らし、新鮮の空氣を入れること、轉地せしめることが大切である。若し本病に熱の上昇、呼吸困難を併發すれば、肺炎に移行せる證固故その手當をせねばならぬ。

肺炎の場合、最近迄、室内を密閉し、火鉢の上の鐵瓶や洗面器より盛んに蒸氣を發生せしめ、室内を夥しい蒸氣にて充滿せしめる習慣があつたがこれは前述の如く、新陳代謝に不適當の高濕状態であるから、却つて病症の經過不良ならしめるものなりと云はれ、近時は吸入以外は却つて外氣を室内に通せしめ、效を奏してゐる。一般の心得べきことである。

要するに冬期に於ける疾病の豫防は、偏食なき合理的栄養食を攝らしめ且つ日光浴を適當なる濕度に注意するといふ三大根本的要件を嚴守することである。

(終り)

旅

—らか驛京東—

新庄 よしこ

夏休みの或る日、さういふ續きあひで、さうなつたのか、今はすっかり忘れてしまひましたが、こに角幼稚園のこを何さいふこもなく考へつゞけて居りました時、ふみ、あの東京驛の構内が眼に浮んだのでございます。さうだ、あの乗車口に一足はいれば、改札口がある、切符賣場がある、荷物受付、自動電話、賣店、郵便局、待合室、つゞいて食堂、あの大きな時計、ピラの數々。さう考へつきましたら、その中のどれでも保育室に結びつけて、先生ミ幼兒ミの協同作業が、かなり長い間つゞけられる様な氣がいたしました。さうだ、あれをやつて見よう、ミさう考へが決めましたので、落つてその一つ一つについて、もくろみを立て、大體の見當をつけて見ました。こで東京驛をそつくり保育室内に移した場面が、おぼろげに私の頭の中に出來上つたのでございます。これが丁度第二保育期を目前にした夏休みのこ、(もう去年のここになります)が、是から私の組の子供達も仕事にこりかゝる大事な時期だ、思ひ切りやつて見よう、だがかう種々ある仕事を決して急いではならない、修了迄の間にすべて完成すればよい、賣店をまつ始めにして、次は何にしようか、食堂は年長組の何時ごろがいゝかしら、なぎゝ保育案のあら筋だけをたてたのでございます。

九月、第二保育期が始つて二三日の後、いよくこの計畫をすゝめて見ました。この時には程餘この仕事についての目的なり、計畫なり、方法なりがはつきり具體的に私に解つて來て居りましたので、次のやうな事を考へられるやうになつたのでございます。

一、一つの仕事が年少組から年長組へ引つゞいて出来る作業であつて、次から次へ展開し得る可能性があり、個々にしても作業價值がありますが、その個を總合すれば、東京驛といふ一つの大きな仕事となり、そこから更にいくらでも展び得られると思ひますが、さう變つて行くものであろうか。

一、先生と幼兒の協同作業、云つても、私が主になつてすゝめて行かねばなりませんので、常に次に取りかかる仕事を考へておくこと、又生活活動を主にした作業は、さうかする活動にのみさらはれて、手技を忘れがちになり易いので、そこには是れを十分入れて一人一人の製作力を伸ばしてゆきたい。

一、これは最も興味深い汽車あそびから始つたことであ

るが、たゞ遊びとしてばかりではなく、日々實際に行つてゐる事實をそのまゝ持つて來られること。

一、年少組はその心配もいりませんが、年長組になります。一つの店だけ例へばおもちゃ屋だけ八百屋だけにいたします。賣り買ひは、賣り手買ひ手の人数が少数に限られてゐるのでさうかする。組での勢力家に獨專され易いのが、賣店、切符賣場、食堂などは、動く人数を多く要するので、自ら組全體のさの子にも活動の機を與へ得ること。

以上が、仕事にさりかゝる前に思ひ浮んだことでございます。

是からのことは、右の計畫を實際に行つて見た経過を順序のまゝに記すのでございますがその間にも考へが變つたり、止めてしまつたり、途中で思ひついたり、さうする寫には、相當の理由もあるので、夫等も織り交せて書いて見ようと思ひます。

賣店

改札口

切符賣場

荷物

食堂

驛の辨當賣り

ざつこかういふ順序でございます。

賣店

まづ最初に賣店を開くことにしました。この頃にもなれば(年少組の第二保育期)子供一人づゝについて大體この子はさういふ子であるさいふのが、受持には解つて來て居りますので、計畫した仕事に向つて一人一人を適當に動かすこゝが出来ますし、子供の方さしても幼稚園生活に慣れて來て、在園中を通じてこれからが一番仕事に向つて専心力を注ぐべき時でございます。従つてぐんぐん仕事を與へて伸ばす大事な時でありますから、紙を材料とする手技製作をして賣店の種々の品物を次から次へに、作るこゝを主として店に置いて見ようさ、かう考へました。

店構へは遊び用の衝立を物置から持つて來てまづ看板を第一に、黄色ラシヤ紙を横に長く切つて、トウキョウエ

東 京 驛 賣 店



キバイテン、カメヤミし、是は私が鉛筆でうすく下書きしたのを子供になぞつて貰ひました(幼年組に筆で字を書かせるのはまだ早いので、ミ云つてこゝへ大人の字では不釣合ひですから、かう致しました)種々の品物をならべる場所は、幼児用机ミ積木ミ。

品物Ⅱ新聞、キャラメル、たばこ、菓子箱、繪本、アサヒグラフ、手拭、手袋、エハガキ、ハンケチ、財布等。

新聞 印刷のしてない新聞用紙を使はうかと思つたのですがあまり大仰になりますのでこれは藁半紙にし、ほんまうの新聞を見せて、字は………にしておきました。

年少組の時には、たゞ「シンブン」ミ書くのもあり、書かぬのもあり、そのまゝにして置きました。がその後あまりよごれましたので年長組になつてから書き直して貰ひましたところ、此時は、私のお家は日々よ、讀賣よミ云つて、殆んき各自、自分の家でゐる新聞の名をカナで書いて居りましたので、家でミつてゐる新聞に氣をつけてゐるさいふ事を知りました。

菓子箱 チョコレートは、子供が大好きですから、

「お家でお菓子の銀紙があつたら大事にして先生に持つて来て下さいね」ミ、お歸りのお支度の出来た時皆に申しました所、毎日のやうに少し宛持つて來ました。それを集めて置いて、その中に紙屑や、綿やら入れて、お菓子にし、空箱に入れてセロファンで被ひをしたり、袋に入れたりしました。私の組の子はそれをよく承知して居りますが、何にしても一番すきなチョコレートが店に列びましたので、始めのころはよその組の子供さん達が、一寸お留守に買つて行つてしまつて、あき店になつた時もございます。カステラなどは、水引をかけた箱だけにしておき、アンパンなども作りました。

買はれるのも一ばんチョコレートが多いやうでございます。かうしましてから大層銀紙を大事にする様になり、お食後にはきつミ三四枚は私の許に持つて参り、又家でも丹精してためて居るようでございます。

財布 さんなのでもお金がいればいゝやうなものですが、よく摺み紙でいたしますあれば、用ひたくない

さ思ひまして、使つても破れない、こはれない、しつかりした物にしたく、ラシャ紙、赤、黄、茶盛りませて縦約二十センチ横十五センチ位の物を渡して、三つに折るこも、ノリ代を残して置く事なき、線をかいたり又は子供によつては見せるだけで作らせました。同じ物をもう一つ、すでに一つは作つたのですから、長方形に切つた紙だけを渡して線もノリシロも一人でさせました。かうして出来た二つを、一つは賣店に置き商品とし、一つは買物に、切符を求めろのに、食堂で食へるのに是非入用ですから各自の抽出しに入れて使ひたい時に使ふ事にしておきました。

その他キャラメル、たばこ、ハンケチ等はこゝで改めて申す迄もない物のみでございます。

右の品々について一こも、これは驛の賣店で賣る物ですから、あく迄も賣店としての面目を失はぬやう心がけました。玩具やお菓子も多くすれば、材料の上では都合がよいのですが、驛まいふ事を常に念頭において續けて参りましたので自らそこに制限がございます。單調にならぬやう、

季節のもので旅に必要な手袋さか、扇子さかいふ物を加へましたが去年の秋、柿を切紙で作つて枯枝につけて、店に置きましたところ、東京驛かと思つたらいつの間にか荻窪驛の賣店になつたま倉橋主事がおつしやつたさうで、中野(主事の住居は文明開化の尖端をゆき、荻窪(私のところ)はむじなか狸でも出る田舎だと思つていらつしやいます。

改札口

寫真(口繪)で見えていただきます。さり立て、申せば、是れは、幼児が切符を買つて入口からはいり、切符を渡して出口から出る、子供が殆んど毎日實際して居ります、その事實を主にねらつた事で、これは先生の製作の方が多うございます。材木屋から約八センチの角材を買つて来て組み立てニスを塗つたもの、柵ミ柵ミは鎖でつゞけました。鎖は、有り合せの黒い新モスを、おちやんくの紐の様にして、輪に致しました。入口出口の札は、何でも宜しく、かういふ場合幼児であるからして、カナにする必要はないと存じ、そのまゝ入口、出口ミして置きました。入口の方に一人の幼児が切符切りを持つて立つて居り客の出す切符に缺を

入れ、出口の方に居る幼児は客から切符を受け取ります。

これをお茶の水のバラックで始めましたので、さうせ引越しするのだからと思ひ、柵を立てるのに、床にヂカに打つけましたが、新園舎に移りましてからは、建物に一本の釘を打つ事もしたくないで存じ、さりごと立てる方法に困つてしまひました。他用で来た大工さんに相談しました處、快く、立ち得るやう作つて呉れました。床にヂカに打ちつけたのミは違つて、さこへでも移動出来ますので、この改札口は、遊びの動くまゝに、室内なり、或は庭なり、室から庭への境へなり、山の上へなり氣に向いた處に持つて行かれて都合が宜しうございます。

切符賣場

是も寫真で見えていたゞきます。窓の高さを幼児の脊に比べて作りましたので、外には大した工夫も要りません。是れも組み立ては先生の仕事、釘を打つこも、塗料、(エナメルで表、緑、裏、白色クリームいろ)を塗るこも、窓口の網を針金であむこみなぎが、幼児の仕事になりました。是を使つて見たまこころ、切符を置く棚や、時日を入れる設備、

(板ミ板ミの間に一寸切符を挿してから賣る) なぎしてほしいさいふ幼児からの註文で、後から加へました。

「熱海まで、二枚下さいな」。

「満洲……一枚」。

「大阪、大人ミ子供です」。

「子供は何枚」。

「子供は二枚下さい」。

かうして切符を買つて居ります。

嬉しい事には、組の中でも至つて無口な、さうかすれば、

二日も三日も口をきかないミ云つた、又は常に一人遊びばかりをしてゐる子供が、こゝでうれしさうに窓口顔を出して友達ミ話して居る所を度々見受けるようになったのでございます。今迄、話をしない、友達ミは遊ばないミ入園以來看板をかけて来て居たので、私が見るミ、眩しさうな様子をするので、知らん顔して、室を出てしまふ事もあります。此頃ではそんな遠慮もいらなくなりました。

切符は、畫用紙で始めは大きさも定めて、行先を書いたり、ミシンを入れたりして居りましたが、ぢきに使つてし

まひますし、大急ぎのまき間に合ひません。それ程急にこの切符賣場を利用しますので、「ちや切符買つて来よう」云つて飛んで来ました時、一々作つて居ては間に合ひません、この頃では畫用紙の書き古しをためておいて、大急ぎで切つては與へて居ります。

荷物受付

この驛でも荷物をあづかつて居りますし、旅への必要品でもあり荷物受付の有様を考へて見ました。大きな行李、トランク、ふさんの包み、菰包み、そこでまづトランクから始めようと思ひつき、私が一つ作つて見ました。幼稚園引越しの時拾つて置いた電氣用具の空箱、ダンボールの大きいものでした。是に、提げる所は、靴屋で不用になつた皮を買つて来て、(三十人分五十錢位)兩端を鋏(足二つ)で止め、角の飾り皮は茶色模造紙。これの一つ作つておいて、それから子供の家からなるべく大きい空箱を持つて来て貰つて、一人づゝ自分のトランクを作りました。大きい物には、アメリカミカ、イタリー、フランスなごゝ紙を貼りまして、今迄おぼろげに聞いて居た物の名が、國の名で

あるこゝをはつきり意識したやうでした。

かういふ時の空箱に、電氣用具の空箱、扇風機ミカ、ストーヴのはいつて居たものなごは何に使つてもいい様で、堅くて、小さい普通の空箱よりも、ダンボールのもの、大きいこゝや、ザクリとした手ざはりなごが、幼稚園の製作に適當でございます。食料品店なごにも澤山ありますので、買つても僅かなもの、大ていはたゞでも貰はれませう。

トランクだけではきまりすぎるので、菰づゝみや、小包式のものなご、荷札をつけて四つ五つ作つておきました。是等は何れも輕いので、持ち上げて見て輕うございませう。實物から來る荷物の感じを減退されますので、適度の重さが必要に存じますので、不用の古い繪本なごを入れて重く作りました。

この雜然とした荷物を汽車に積んで、荷物列車にするこゝがよほご嬉しいやうで。幾度か繰返されて居ります、この荷物にはガラス(ガラスで作つたものゝ意)がはいつて居るから大事にしてね。一人が云ふに、ソーツミ持ち運びし

てゐますので、取扱注意が自然に行はれて居るこゝなきを見受けます。

この鞆の中に、自分のほしいものを作つて入れさせたら、手技製作にも面白いものが出来ると思ひましたが、こゝでは餘り微細になるこゝを避けて止めておきました。その代り、何か入れるものが欲しくなつた時には賣店から買つて來た物を入れて居ります。

大時計Ⅱ大きなもの、確りした物と思つて、板にししました。四十センチ四方のベニヤ板を(十五錢)四角のまゝに使用ひ、數字はエナメルで幼児に書いて貰ひました。針は同じく細い木で、自由に動かし得るやう、云つても真中に釘一本打つただけでよろしいので、驛の爲にミ作つたものが、お辨當の時になれば、椅子を持つて行つてせのびしつゝ十二時を指したり、お歸りには、誰かゞ飛んで行つて一時半にいたして居ります。時計そのものを知らせるのは早うございませぬが時刻の觀念位はそろゝ始めた方がいゝと思ひまして、時には私の方から何時ごろでせうねえ、この素朴な大時計の針を動かして聞いて見るこゝもございませぬ。

電話Ⅱ東京驛には電話が澤山あるよこ或る日子供が申しましたので、それで無くとも一度電話を室に置いて見たいと思つて居りましたこゝで、早速、木あき箱で、おかしな物を作つたのですが、さうもわれ乍らみつこもなくて、でも子供はそれで相當に話をして居りました。新聞舎には餘り恥しくもあり材料費の餘裕が出来ました時に電氣屋に相談しました。(玩具やにあるのはあまり小さいので)店の若い息が面白がつて、自働式の、鈴のなるのを作つてくれました、(貳圓五十錢)幼児二人で話し合ふ聲が聞え得る程度の距離に備へ付けました、(線で話の出来るのは餘り高價になりますので)かうして順々に待つてゐて話しをするこゝなふ有様で。

「明日大阪に行きませんか」。

「あした東京驛に來て下さい」。

「今日サーカスに行きませんか、大急ぎで」

折しもサーカス流行りでサーカス見物へ誘ふ電話はひつきりなしで、電話ばかりでなく、丁度あの五六月頃は、何でもかでもサーカス、動物の玩具を出して來て、積木で

一つ一つ動物小舎を作る、動物つかひの上手な、M、T、Yなき、毎日／＼幼稚園に來るなり、虎をおごらせる、象に藝をさせる、ライオンが輪をくぐる、私も慣習生も面白くなつて、レコードをかけて景氣をつけたりました。いつの間にか入園間もない小さい人達が、庭側の入口からゾロ／＼見物に來る、する／＼、驛のキップ賣場が忽ちサーカス用になつてお客さんに切符買つていらつしやい／＼命じる。買つた子は入口からはいつて、動物の近くで腰かけて見物、終る／＼出口から歸る、小さい組の人達が、一ぱいなので、「僕、お菓子買つて上げよう、キャラメルがいゝね、たばこも買つて来て上げる」こいふわけで、此のサーカス興業中に賣店の品物は殆んど賣り切れで、又新らしく作り直したやうなわけでございます。是が一週間もつゞきましたらうか、あんまり、お祭り騒ぎもさうかき存じ、ソーツミ動物をしまつたやうなわけでしたが、ほん／＼に面白／＼ございました。この電話が驛のもの／＼はすつかり關係を離れて、家の電話に使はれて居りました、大ていはお臺所の御用で。

「肉を百匁持つて来て下さい。」

「バナ、を一チヨウ(?)大急ぎで持つて来て下さい。」
一方でリンがなる／＼通りが／＼りの子が大急ぎで電話口に出るのを屢々見かけました。誰／＼も遊ばない、自分からは口を開かう／＼しない子が、誰も居ない時、一人で電話口に向つて居る時なき、大急ぎで私から電話でその子に話しかけて、思ひがけなく話し合ひの出來た／＼もございました。

食堂

六月にシヨクドウ、セイヨウケンさいふ札を出しましたら、主事が喰ひしんぼうだ／＼違つたものだ／＼通りが／＼の先生に笑はれましたが。

食堂をして見たい、／＼はかね／＼思つて居ました。御馳走をこしらへて、お客さんが食べに來て、コックさんが居て、註文の品を運んで來る給仕さんも居て、それが丁度汽車のあそびで、食堂車がほしい／＼か、お辨當がさう／＼か申しますので、まづ看板を出したのでございます。衝立で室をしきつて／＼を食堂にして、テーブルには白いきれをかけておいて、それから食料品の製作にかゝりました。



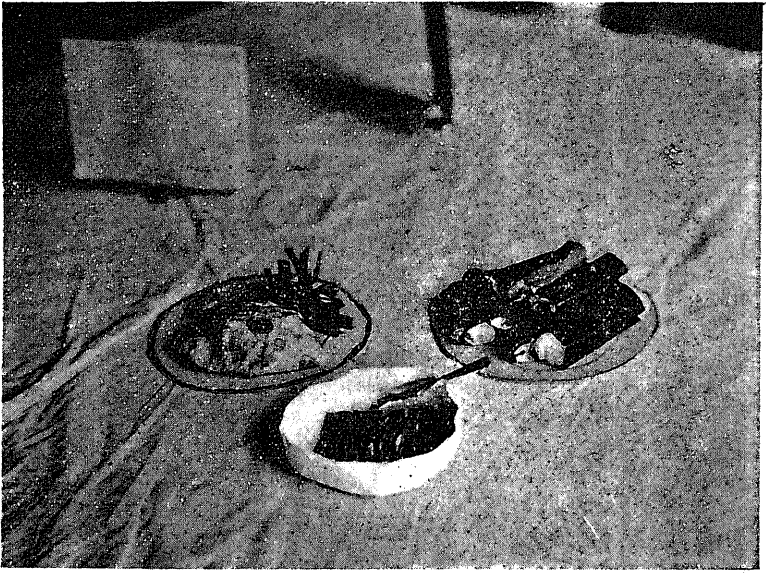
食 堂 アヒサグフヨリ轉載

お母さんに連れられて、食べに行く事は誰もくして居るこゝですが、自分が主になつて物を注文するこゝいふ事やそれよりも、注文された品を持つて行くこゝいふそれが誠にうれしいらしく、私もそこを満足させたいと思ひ、これを始めたのでございます。

食料品棚

この寫真でござらん下さいまし。ポールド半分は黒色ラシヤ紙を貼つて、洋酒類、西洋菓子、果物、お皿云つた、誠に雑然とした品々ですが、書用紙に寫生して、それを切りぬいて棚に貼つたもので、洋酒はサイダーやアルコールの空瓶を、その他は夫れぐに、材料を探して子供が書きました。この時の先生の忙しさ、喰ひしんぼうは主事にのみ限らず、幼児一同、御馳走製作に一齊にごつみ押し寄せて室中書用紙だらけいふ盛況でございました。出來た品々を黒い紙の上に貼りますき、この様にいかにもおいしさうなので、大よろこびでした。

右の食料品棚は見た目には大へんおいしさうなのですが、注文の品を持つて行くこゝいふわけにはまわりませんが



御馳走 走 馳 御 薩 比 旗 フ よ り 轉 載

ら、そこで、繪ではない、運んで行かれるミころの御馳走をつくりました。

お皿は、白色ボール紙を西洋皿大に切つたもの、チキンライス、アイスクリーム、海苔巻、玉子巻、精養軒にはちミ不似合ですが。

のり巻は、黒模造紙を適宜に切つて綿を入れ茶色の紙で干瓢をはさみました。幼稚園でつくるものは何でも綿入れだミ主事さんに笑はれて、疊の藪でも使つて見たら、ミ教へて頂き早速そのやうにいたしましたがなかく面白いのが出来ました。チキンライスは半紙をもゝ色に塗つてグリーンピースをかいて、これも綿入れ、バセリを添へて、かうして一皿つつ出来た御馳走を食料品棚の下に一枚板で棚をつくつて竝べておきました。

これにコックさんのかぶる帽子、給仕さんの飾り帽子が出来ましたので、食堂が開かれました。その状況を寫真でござら下さいませ。今お客さんが満員で、暑い頃でしたから三色アイスクリームを食べてみます。お客さんの註文で給仕さんはコックさんにチキンライスを貰ひに行つて



内 車 列

ます。

白いきれをかけたこのテーブルだけは、他の時には使
ないで、食事をする時、つまりお辨當の時とか、食堂ゴッ
コの時だけの専用にして置きます。

驛のお辨當賣り 汽車が動き出してから、やたらに賣店
の品物を持つて來ますので別に、首から下げる箱へ、お辨
當やら、アンパンやら適宜の品を作つて入れました。

寫眞は、驛に止つた列車の景でございます。

去年の夏私が頭の中で考へた時き、それからつゞいて幼
稚園で實際に見ました今き。思ひの外に子供が動いて
くれますここに依つて次へ次へミ又あらたな方面に展開し
て行きました。まだく展び得られるのでございますが、
修了を控へた今、他の方面にもちミ力を注ぎたい事もござ
いますので、惜しいと思ひながらこゝで打ち切り（仕事だ
けは）ましたわけでございますが、相變らず賣店での賣り
買ひ、入口出口の往來、食堂ごつこいふ、所謂幼児の生
活々動は間斷なくつゞけられて居ります。賣店にしても、

キップ賣場にしても食堂にしても、あそびは時を定めて居りませんので、心の向くまゝに任せて置きます。

又、この仕事でよかつたと思ひますのは、始めにも申しました様に、店なら店一つの時は兎角組での勢力家に主要役目を獨專され易うございますので、先生が挨拶しなければなりません、この仕事では、活動する場所が方々にございますので、大きく申せば一時に組の子全部が活動し得られるといふわけでございます。

かうして参りますと、食堂に入っている時はきつと自分の抽出しから財布を出して来て、食べてしまふとお金を支拂ふ、切符を買ふ時には鎌倉、大阪、神戸も嘗て自分の行つたところのある行先をいふ、もし是があつて二年迄もつゞいてゆかれるものなら、汽車の時間表と時計と、賃金と數と、地方の名稱と文字と、構へずして自ら伸ばし得られるところの、保育から教育へのなだらかな流れになるような心地がいたしました。

さうして、幼稚園時代の子供を他愛のないもの、手應への無いもののみ思つて居る人々にこの様子を見せて上げ

たいと思ひます程その活動が潑刺してゐる上に、食堂での註文の仕方、荷物の扱ひ等、實に確りしたものでございます。これらの仕事に對する子供の動き方を一人づつながめて居りますと、これが遊びとは思はれない程の眞劍味があふれて居ります。ごつこいふのは賣店や食堂の活動を表すのに最もいふことは思ひますが、さうもそこにはあそびの意味が多分に含まれてゐるやうな懸念もございまして、さうかと思つて居ります。むづかしい事を申すやうでございますが、つまりは大人から見れば遊びに見えるでも幼児自らは眞劍に活動をつゞけて居りますその力に私が動かされて、幼児の活動をあらはすことばに迄ついろ／＼考へてしまふのでございます。

童謠
漫筆 ニコピン草 (二)

仁古貧生

ニコピン草は、仁古貧草なり。某曰く「仁者古來貧也」と、貧なるが故に尊とし。貧しきが故に、如何に小なる悦びも、幸福をもたらず。即ち、この貧や、富など。而して、幼児の伴侶たるものにのみ、此の謙讓の徳豊かなれば、此の悦びと、此の幸福とは、與へらる。満足すべく、感謝すべし。ニコニコピンなど、いらざることを謂ふべきにあらず。



唯恐る。この仁古貧草、あまりに雑草多くして、花咲くこと無からんかな。されば、翼はくば、精讀紙背に眼を透して、心の大野に、はた、胸の野路に、お好み好みの色に花は咲かせて、幼児の言行の神秘と眞理とを愛でたまはらんことを。

一、三日月船

三日月は、昔から幼児のもの、童謠ものになつてゐて、たくさんに、幼児をよろこばせてくれますが、それを、晝にかゝせませう、上弦なのか、下弦なのか、明確でないのは、何うした事でせう。人間をかゝせれば、首からすぐ腕が出て、足も出る。しかし、手の指は、明かに五本かくほ

ぎの正確さはありますに、何故、月の中でも、三日月ばかりが、上弦なのか、下弦なのか、明確に、幼児の心のカメラに印象されてゐないのでせう。

さういへば、これは、幼児ばかりではありません、私の關係のある女學校の上級生に月のレンズがあつて、

「一體三日月は  の形でしたかね、それきも  の形でしたかね」。

と尋ねましたところ、

「あら、ほんご。ごちらが三日月様でせう」。

「上が缺けてゐるんでせう」。

「あら、下が缺けてゐるんでせう」。

「ほんごに、ごちらでせう」。

「あら、いやだ」

と、自らに失望して、

「先生、ごちらですか。三日月さまは」ご問はれて、先生も、數年前までは、

「先生も、少し怪しいから、皆さんに、おきゝしてゐるんです。

皆さんは、コトモではないけれど、大ごもではない。大ごもは、こかく鈍感で困るが少くも、中ごもだから、大ごもの私達よりは、敏感でせう、それで、上弦の月が三日月様なのか、下弦の方がそれなのか、中ごもさん達は、明確に知つてゐさうなものではありませんか」。

ミ、苦しい回答をして、再び、皆の間に

「あら、ほんきに、ちぢぢぢでせう」。

「上が缺けてるんでせう」。

「下の方でせう」。

ミ、反復して考へさせたことでしたが、先年外國から歸つた友人の御土産の本の美しい挿畫を見てゐますミ、三日月を船にして、可愛い少女が、乗つてゐるのがあり、童話にも、月の船がある事を思ひあたり、私も「三日月船」を思ひつきました。それは、數年前の事ですが、やつミ、此の

夏、新那須温泉で、幾つかの校歌を作りえて、安心して歸京する汽車の中で、「三日月船」の短かい童謡を作りえましたが、これは、まだ完全ではありませんので、お目にかけてねますが、私が、綴方だけ擔任してゐる尋常小學三年生に出た時、女學校上級生へ同じ様に、きいてみましたところ、低學年は、意外に多いが、日ごろ、夕空に仰いで見て、印象つけられてゐるところも、明確だに見えまして、正しく答へるのでしたから、大にほめて、

「ギッチャラコ〜ミ漕いで行く中につつミ、波の上に乗りに上げた様に、右の方が、すこし高く上つてゐるんですね。

三日月さんのお船は」

ミ、いふに、

「さうです。三日月船です」三日月船です」

ミ、口々に叫んで、大悅なのです。

そこで、

「三日月船は、ミこの海を漕いでるんでせう」

ミきくミ、言下に、

「空の海を漕いでるんです」。

こいふお子さんが二三人。

「うまい！空の海です。さうです、三日月船は空の海を漕いでるんですね。

それで、空の海は、何んな色をしてるますかしら。」

「ハイ」「ハイ」「ハイく。」

こ盛んに手が上つて。

「青い色です。」

「海もおなじで、青い色です。」

こ重ねていふお子さんがあります。そこで、私は、

○ いね、

□ いね、

空は □ね

□をこいでる

三日月船ね

こ板書して、○、□、□に漢字一字づゝを入れる事を求めましたところ、○は、すぐ「青」こきました。次が、□が、きまりません。そこで、

青いね

□ いね

こ、よんで、次の、□をきゝますこ、さつき、いつたばかりですから、すぐ、「海」こ分りました。そこで、又一度、初から、

青いね

□ いね

空は海ね

海を こいでる

三日月船ね

こ、よみまして、□の字を、考へさせますこ、送り假名法を知らない尋三の生徒は、

大きいね

こいふのが三四人。然し、それは、□○いねである事を教へますこ、可愛い首を右へ、左へ、皆、傾けつゝけて、

「あ、分りました。はい、はい」

こ上る手の元氣よき。

「高いね、です」

「なるほど、」

青いね

高いね

空は海ね、

海を……

それも善いですが、海ですから、『高い海』こいふより、もつこ、海らしい空、空の海の事は、何こか、いへませんか。」

こいひながら、大空を仰いで、視線を大きく左から右へ廻し片手も差し延べて、大きく弧を描いてみせて、

「大きいこいはないで、大きい事を、何こか謂へませんか」
こ尋ねますこ、

「大きい……太い。あ、太いです」

こいふものがあるこ、誰かど、

「太い海つて、をかしい」


こ笑ふので、又、皆、だまつて考へ込むのでしたが、急に、一人が、

「先生々々、分りましたく。『廣い』です、『廣い海』です」
こいふや、誰彼一緒に

「さうですく、『廣い』です、『廣い海』です」

こ、もう、きめてしまつて、ニコくするのでした。

「よろしい、『廣い』ですよ。」

こ、の中に、「廣」の字を、かき入れて、皆に、一緒に、よませるこ、

「青いね

廣いね

空は海ね

海をこいでる

三日月船ね」

こ大きな聲を、そろへて、皆。ニコく、ニコく。

さて空を海こ見たてく、青い海、廣い海は、きまりましたが、唯、青いだけ、廣いだけでは、海らしくもないので、

「何か、波らしいものは、空に、有りませんか」

こ尋ね、重ねて

「何か、島らしいものは空に、有りませんか」

こ尋ねて、まだ、よい決定を見かねてゐますがさて、何が、空の波になり、空の島こ見えるでせう、幼児の眼に。

その不定の中にも、三日月船は、三年生の皆に、うれしく
て、さて、

「先生、三日月船には誰が、乗るんですか」

「問ふものが、ゐてくれた嬉しさ。」

「さあ、誰が、乗るんでせうねえ、ほんまに——。」

あなた、のれますか」

「問うて見るさ、すぐ、鋭さくも」

「いゝえ」

その返事。

「先生が、のれるでせうか」

「尋ねてみるさ、一人」

「え、先生は、のれます」

「さいつたものが有りましたが、多くは」

「いゝえ」

でした。先生が乗れるさいつたのは、先生は、何でも出来
るさ考へてゐるからか、または多少、先生さいふものに、
お世辭を考へてゐる事がでせう。

「さなたか、此の中で、三日月船に、のれるさ思ふ方」

「さ、擧手を求めましたが、一人も、手を擧げません。小さ
な聲で、

「飛行機にのつて三日月までいつて、乗るさいゝ」

「話し合つてゐるものもありましたので、

「月までは、さても、今のさころ、行けさうもないんです
から——。」

さて、

□ たち のれない

○ の船ね

さかいて、また □ や ○ に、漢字一字づつ、入れさせます

さ、□ が、「私」か「僕」である事は、すぐ分りましたが、

○ は、すぐには、出ませんでしたので、初の

青いね

廣いね

空は海ね

を考へ出させて、さて、

私たち のれない

○ の船ね

を尋ねて、二三回問答の末、

私たち のれない

空の船ね

こきまりました。そこで、續けて、

「では、誰が乗る三日月船でせう」

こ尋ねてみますと、實に、いろ／＼出ました。「鶯の子」「鳥の子」こいふも、輕々しくも「鳩の子」「燕の子」……の子なきゝ知る限りの、鳥が出て來るのです。そこでやたら鳥ではいけないこと、鳥よりも、もつこ、善いものは、こ、更に、熟考を求めてみますと、うれしくも、「風船玉」や、「シャボン玉」が出て來るのでしたが、

「もつこ、しつかりしたものが、乗らないでせうか。そんなに、地面から、上つて行かないで、空にはかりるもので、何か、美しいものが乗らないでせうか」。

こ、重ねて聞きますと、又、鳥が出かけて、皆から、引込めさせられて、「雲の子」が出来ます。

「はつです、『雲の子』です」

この賛成も一二ありましたが、

「もつこ、はつきりした事」

こ、二度目の熟考を命じて、

私たち のれない

空の船ね

□のこきもの

三日月船ね

こかいて、□の決定を求めましたら

月の子供

こいふものが出て、大笑になりました。

「月のやうに、空に有るもの。しかし、月の様に、たつた一つでなくて多勢、一緒に、遊んでゐるもの」さ、それは、なにに。

こ、釣り出しますと、あまり多くの沈黙もなくて、すぐ、

星の子供

さいふ事が、分つて、皆大ニニコニコ。
そこで、初から、

廣いね

青いね

空は海ね

海を こいでる

三日月船ね

私たち のれない

空の船ね

星の子供の

三日月船ね

「よませて、さて、

「この童謡が、よく覚えて下さい。三日月様は、上が缺けてるのか、下が、缺けてるのか、よく覚えていらつしやいね、下が缺けてるこ、三日月船にはなりませんね」
「ひつくりかへつてゐんです」

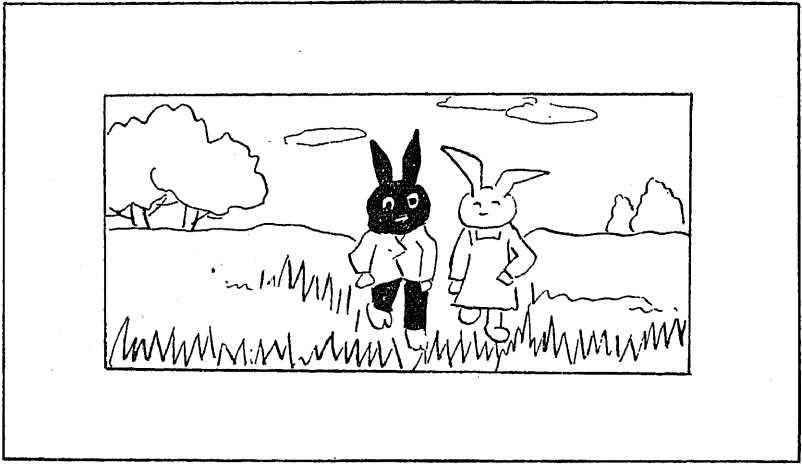
「さうでせう。三日月船さいふ船なんです。船は、のれ

なくて船にはなりませんね。ですから、この童謡を、よく覚えておけば、三日月は、船なんです。から、上が缺けた形ださいふ事が、よく分りますよ。

今日ね、お家へ歸つて、お母様やお父様がお忙しかつたら、お姉様か、お兄様か、大人の方に、きいて御らん下さい。三日月様は、上が缺けてゐますが、下が、缺けてゐますか。つて——。そして、もし、そく御存知なかつたら、この、童謡を覚えてお置きなさい。こいつて、皆さん、るばつてお上げなさい。さ、今度は、三日月船を暗誦して見ませう」

こいつて、所々の、漢字を、消して、一緒に、齋誦させて見ます。大丈夫、完全に、よめるのでした。

かくて、この童謡は、前述のこほり、波三島この描寫が、未完成のまゝになつてゐますが、それは、なくても、此のままでも幼児間には、よい程の長さであり、また、前述の内容の點に於て、成人した後までも、「三日月船」さいふ詞だけによつて、三日月の形を覚えしめて、一生に、何かの役目を果して呉れませう。(次號「幼児の科學」)



たどり急の活動寫眞

及川ふみ

製作の始め 九月二十日

製作の終り 十月二十日

材料

模造紙 全紙 十七枚 五十二錢

水繪具 一箱

泥繪具 半ポンド 二十錢位

板 四分板長さ二間 五十錢

竹 直徑三センチ位の太さ、の長さ七十センチ位のもの二本

繪の材料 幼兒のよろこぶ黒兵衛をこりました。

一、黒兵衛の散歩

二、黒兵衛とお母さん

三、黒兵衛のお家の外

四、白ちゃんご黒兵衛 (一)

五、白ちゃんご黒兵衛 (二)

- 六、白ちゃんを黒兵衛 (三)
- 七、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (二)
- 八、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (二)
- 九、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (三)
- 一〇、馬遊び遊び (二)
- 一一、馬遊び遊び (二)
- 一二、馬遊び遊び (三)
- 一三、馬遊び遊び (四)
- 一四、風船の發見 (二)
- 一五、風船の發見 (二)
- 一六、風船の發見 (三)
- 一七、風船の發見 (四)
- 一八、風船の發見 (五)
- 一九、風船の發見 (六)
- 二〇、風船の發見 (七)
- 二一、お月様のおのぼり (二)
- 二二、お月様のおのぼり (二)
- 二三、お月様のおのぼり (三)

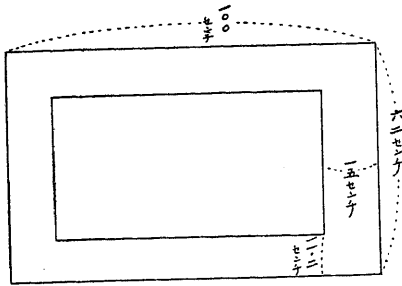
- 二四、月の世界へ旅行の相談 (二)
 - 二五、月の世界へ旅行の相談 (二)
 - 二六、風船のり (二)
 - 二七、風船のり (二)
 - 二八、風船のり (三)
 - 二九、風船の上からお家へお挨拶 (三)
 - 三〇、お月様に近づく (二)
 - 三一、お月様に近づく (二)
 - 三二、お月様にお目見え (二)
- この三十二景を模造紙(縦四三センチ横七九センチの大さ)につぎつぎをかきつらねました。
- 毎日これをつぎつけてかくわけでもありませんが二枚或は三枚位つゝの下繪を保姆が原圖を廓大して用意いたします。そして幼兒にその鉛筆の下繪を墨でたぎりながらかかせます。一枚の繪を一人の幼兒がすつかりかき上げる日もあれば又二人三人で一枚をかき終る日もありました。墨でたぎり畫きするだけでも、三十二枚の繪を平均二人の幼兒がかいたまして六十餘人の手によつてかゝれた事になりま

す。

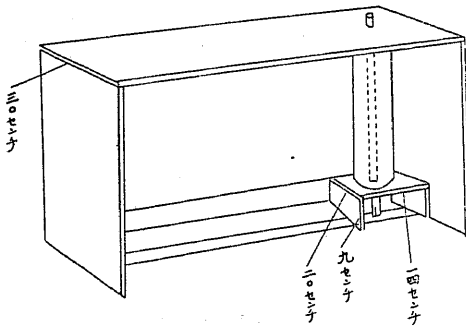
彩色にも、一場面に二人三人の幼児の手がかゝつておりますので、これにもやはり六十餘人で色つけをいたしました。それで線がきこ、彩色も両方ともやうやく満一ヶ月の後に出来上りましたのでこれを順々の場面をはぎ合せました。

舞臺枠

正面



背面



これのおさまる舞臺の製作も、計畫の途中でありましたが、幼児は早く見たがりますし、丁度お月見の日でもありましたのでさにかく中味だけを兩端を竹にまきつけて試寫するこころいたしました。

もこゝ幼児の大層よろこぶ材料でありました上に、幼児がめいゝかいたものが二面も三面も出てくるのでありますから興がる事も一入でありました。

二間の板をほんご無駄なしに別圖の様に舞臺枠が出来ました。

茶色のカゼインを水にこかして、刷毛で全體をぬりつぶしました。かんなのかゝつてゐない板に色をつけるのでよくしみないのですが、つるゝの上に色をぬるのも味のないものですから三度ばかりくりかへしてぬりました。

別圖の脊面圖の竹の心を、下で手で動すのには少々工夫をこらして、まかれた紙が垂れない様に四角な臺をつくりまして繪巻物が下に垂れないで左右とも圓滑にまわる様につくりました。

説明者は舞臺の外に出で、幼児の様子を見ながら説明いたしましたも又舞臺のかけに入つてしてもよろしう御座います。

繪はかなり長いものが面白くてよいのですが一卷が出来

上るのになかく時日もかゝりますし、あまりながくかゝりますし、あまりながくかゝては興味もさめますから適當の長さをえらんで材料さしてなるべく多くの幼児の手によつてつくられる様にいたしたいものであります。

土だより

思ひがかなつて、裏庭の一隅に幼児用畑が組の数だけ出来ました。一體今頃、何植えたらいかしら、と花燦亂の結果ばかり考へて、まごころしてゐる中に、及川さんが手始めで、チュウリップと水仙が池の組用畑に植込まれたのに刺戟されて、どこも〜急に活躍を始めました。まづ土の榮養からと、無暗に肥料ばかりまいてゐる人もあれば、大岩師を顧問に、自分勝手な相談もつゝいたあとで、どうやらどこも落つて、今は、チュウリップ、水仙、ひなげし、そら豆、えんどう豆、二十日大根、百合、スキートビー、シレンチ、矢車草、などが可愛らしく土を盛り上げて芽を出して來ました。やつぱり、土をいぢるつていゝものねエなど、掌にほんのちよつびり泥をのせて、青空をながめつゝ土の詩人ぶる人、植え込んでから、それは花の咲かない球根だつたと知つて泣きさうになつた人、立札ばかりば、六つの畑を威嚇してゐて、花の方はイマジテーションでいかうといふスキートビー張りの人、こんな頼りない話のあとで、或る相當な植木商會で、このチュウリップ大丈夫？ときいて、大丈夫とは何がですかと店の洋服さんに関き直られて、あゝ、幼稚園のお仲間ぢやなかつたと、這々の體で店を出た事もございました。

來年の春は、さぞ花も美しく、豆もすゝなりでございませう、楽しんで居ります。

(よじこ)

木の葉繪の具と御命名を頂きて

静岡 藤枝幼稚園 岡 田 せ 代

淺學の身を以て此貴き御紙面を拜借致します事は誠に不本意で御座いますが、先輩であり、常に後輩の指導の爲に御盡力下さいます本縣燒津常盤幼稚園長松岡靜子先生がこの度御上京遊ばされ、女高師附屬幼稚園を御參觀の由伺ひましたので、私も御同伴を願ひ、數年來私共園にて幼児に

俱に興味を以て試みて居ります植物材料自然色草木の葉をまじし花果皮等を細粉させる物（見本の一部三十種及應用畫を持參附屬幼稚園へ御伺ひ致しました。

當日は恰も本學期始の日にて、倉橋先生には非常に御繁忙にていさも御貴重なるお時間で在らせられましたが、松岡先生の御紹介にて私共の御願をお快く御聞届け下され、右携帶致しました幼児製作品に就き御懇に御覽下さいまして種々御高教を賜り、尙御親ら糊刷毛をお手に數種の材料を御試用下さいまして御美事に「木の葉繪の具と御命名下さいました。是迄幼児は唯おこなごし申し、私共は自然色と

申すのみで御座いましたのに、此度計らずも貴き先生より幼児にふさはしき名稱を賜りました事は誠に有難い事でありました。

尙ほ其節は御獎勵の思召を以て

「藤枝の君が骨身を粉に碎き

考へ遂げし木の葉繪の具哉」

とお書き添へ下さいました事は實に有難き極みに存じました。然し之は決して私共個人への爲では御座いませんで、頑是なき多數幼児の數年來自發的にうけつぎつぎて積み上げました幼児の努力に對し、幼き者の魂への御溫き御いたはりのお言葉と感銘致す次第で御座います。此さゝやかなる作業にござりませぬ、他日何等かの大事業への進路をお與へ下さいましたものご先生の深い思召を有難く存じます。

尙お歴々の保姆先生方にも御多忙中御熱心に御覽下さいまして御懇に御導き下さいました事は、之亦有難い事であり

座います。尙其節此事に就て原稿をも書いて見よと迄仰せ下さいましたお言葉に甘へ不遜乍ら其一端を述べさせて頂く事に致しました。

昨年は奈良女高師森川先生静岡御出張を幸ひ、恩師林成子先生の御紹介にて右につき御高覧を賜り御懇なる御示教を頂きました事も忘れ難き感激で御座います。林先生には其始め、此種子を蒔いて頂きました恩人、松岡先生は此芽生を培つて下さいましたお方で御座います。御有名の膳、望月兩先生お始め、自然物應用につき深き御研究の諸大家先生より種々常々御感化を頂いて居ります事で御座いますが、私共園に於きましても田舎の事にて比較的材料を得易くありますから、幼児達も種々な形を造り、弄ぶ事や貼つて繪



(園稚幼枝藤)び遊なこお

なす事なきも致して居りますが、數年前よりふこした事から左記の遊びをはじめていつまでもつゞけ、次第に多少なりと進歩して参りました。

一、木の葉繪の具とは何か

自然に捨てられ勝の草木の葉、花、果物の皮等を日に干し、又多少乾燥し難き物は火力を加へて粉にして見ました處、數限りもない美しい色の物が出来る事が分りました。幼い園児達は、皆喜んで自分分で自由に材料を選択し興味を以て製作(但火力を要するものは乾燥させたる後與ふ)し色々の變つた色を殖す事や、香の良い物を見出して喜んで居ります。乾燥の工合により同種の材料でも多少異つた色が出来ますので色々に應用さ

れます。之が木の葉繪の具と御命名を頂いた物で御座い

ます。

一、設備及幼兒生活

墓塵内外共各専用 二疊 材料用 若干 籠 箕 金箕
穴箱 手押車 播鉢播子木 飯事遊用帶 金網笊 篩 新
聞紙 匙 見本箱 小箱又は空袋多數 引出付机 鉛筆、
季節の天候によりて室内室外適當に墓塵を敷きて場所
を定む。室内は主任室の一隅に何時にても用具使用さる
る様備へおく、外専用具は物置に置き、幼兒の望により
助力して適當なる所に運びます。

一、材料は園外保育の際 園庭にて遊ぶべき等得た落葉花
片等又は家庭より野菜の葉、生花の廢物雜草等持參する
時は必ず主任に見せ、居らぬ時は机上に置いて行き、又相
談に參ります。主任は目を通す丈でよいとする物も、觀察
させ名稱形態特質效用注意等を話合ひます物も御座いま
す。他の幼兒にも自由に聞かせます。不潔なる物、蟲害
ある者等は各自にて先きに注意して參ります。園にても
若干の材料を常に用意して何時誰でも使用出来る様に致
しておきます。新材料が無い時の用意には櫻の枯葉、梧
桐、ポプラの葉等澤山ある時に集め乾燥させブリキ罐に

入れて保存して置き何時でも入用の時は使用出来る様に
しておきます。

材料の乾いたのを見て揉み播鉢に分けて播り、金網笊又
は小さき篩にてふるひ袋又は箱に入れ字の書ける者は印
をかき機の引出しに入れ道具を片付け手を洗ひに行きま
す。放課後弟妹を引連て來て夕刻まで此遊びをして居る
者もあります。鼻で呼吸をする様注意を與へ置きますか
らよく鼻をかんで始めます。數人づゝ位代る代るやつて
居りますが、殆んど粉を混合させたり、飛散させる事も
なく大事にして健康上の障礙となる様な事は是迄認めら
れません。食前の時は含嗽させる様致します。水分多く
日光にて短時間に乾燥せぬ物は金箕鐵葉箱に入れころ火
にかけ乾燥させて與へます。

一、幼兒の努力によつて得た材料は之を種々に應用されま
す。飯事遊。商ひ遊びの材料となり圖書手工を始め人形
劇其他の背景祝賀會等の額に應用され又材料によりては
蟲除きなります。

使ひ方、大體の構圖をなし、クレオン又は草の露にて下
塗をなしたる後砂繪の如く糊をぬりて此材料を用ひ、

二色以上を用ゆる時は一色づゝ用ひ、其上に塗る必要ある物は一度紙を起し拂ひ落し（直接手を觸れず）後新聞紙を上へのせ半にこすりおく。

少しく乾くをまち其の上へ同様に糊をぬり粉をふる。保存上、仕上の際、尙一回繪の上に糊を塗りおけばよし。繪本の破れ等から適当な人物動物等切つて貼るに面白いものが出來ます。

一、長所及短所

一、長ミする所は自然美を其まゝに表現するの感ある感じよきことになること

一、厚みある繪をかく事を得

一、無償にして廢物利用ミなり、多量に用ゆることを得

一、普通繪の具は幼年者には不適當なるも、之は自由に弄びてよきこと

一、家庭裝飾用ミしても興味あり
一、見榮えする繪ミなること



(園稚幼枝藤) 畫用應具の繪葉の木

一、原型の儘はりたるものより、永く保ち又變色するも上塗を幾度にもなし又新らしき色ミなること
一、芳香なるもの蟲害を防ぐ物あること

又此遊びにより感覺練習、植物觀察、有毒植物に注意する。協同一致、自己充實、忍耐努力、秩序正確、晴天外遊びを喜ぶ、自然美の愛好等の良傾向を認めます。

短所ミする所は、變色し易き事、(變色せぬ物もあり)有毒物に注意すること、散り易き事

一、材料選擇竝に諸注意

手近に有るもの、有毒ならざるもの、大量得らるゝもの。蟲害又變色の甚だしからぬもの、惡臭な

は不潔ならざるもの、

きもの、等を選ぶ様致させます。

尙美しき花をまり枝を折る等の事は常に注意を與へておきますから餘り御座いません。

材料としては普通、梧桐、豆類の葉、糸爪、里芋、桑、やぶからし、よめな、はこべ、みつば、栃等の葉、唐もろこしの冠毛、金仙花、ほうづき外皮、竹の挽粉等、山吹、百日紅少しく火氣を要する事ある物は楠、銀杏、杉、檜、槿、蜜柑其他果皮、ダリヤ、菊等の花片、粉ならぬ綿の如くなるもの、ぶぎょう、蓬の葉、柿の葉は變色し易し、葉鶏頭、漆、ひかん花、朝顔、其他有毒植物を避けること。

地方により種々よい植物がお有りになる事存じます。が、餘り乾燥に手数の掛る物はお勧め出来ません。茶色綠色黄色とあれば先づ繪が出来ます。櫻の枯葉は一番必要です。すからある時拾つておくに宜しいのです。作りました繪は壁に貼るか新聞紙でものせて平にしておくこと、乾燥に過ぎ平にされない時は裏から少しく霧をふいて押をおけばなほります。

尙、應用の一法として、楓、銀杏、其他の木の葉の一面にのりを塗り、紙面にはり、直に其葉をはがし粉をふりますと美

しい葉が表はれます。裏面にぬれば脈がはつきり出る代りに、糊がつきにくい所が出来ます。表にぬれば此反對ですか

ら必要に應じてごちらでもよろしいのです。動物、花、人物等の形を切りぬきて紙の上におき、其縁よりかけて外に糊を塗り、上よりふるひにてかろく粉をふりかけ後、形紙をこるはつきりした形が現はれます。又此反對にまはりの形をおいて中に糊を塗りて粉を同様ふりますと反對に其形が描かれます。又此外、草の葉、やぶからし、はこべ、つゆくさ、大根の葉、かたばみ、ふき等の葉、ダリヤ、カンナ、つゆくさ等の花等のみみ汁、又實より美しい汁の出るもの等がありまして是等を應用しますと美しい繪が出来ます。天然自然の植物の葉、花、實殆ど其儘に捨てがたくありません。又自然に之を誘導する者は其必要上から興味を以て研究が出来ます。

右永々不文要領を得ず、我田引水の事のみ申述御紙面を汚しました事を深く御詫び申上げます、尙未熟なる試に付今後共充分なる研究を致し度い存じて居ります。何卒今後も諸先生の御教導を賜り度御願申上ります。

時恰も晴空秋朗の好時節を迎へ益々諸先生の御健康を祈り奉ります。

十月號讀後

檜 山 京

五六

巻頭の「健康」に秋晴れの空がかゞやき、赤さんぽがミビかふ、かけまわる子等の歡聲とつぶらな瞳をこらして、あぶをねらふ子の、しのび足の姿が目にかぶ。

健康の秋ミ題してのかすくのお話の中に、宮田先生の「身體教育としての幼兒の運動生活」に就て組織系統ある科學的基礎の上に立脚せよ」のお言葉は實に私共實際家が痛切に感じてゐる處である。

可愛い、遊戯はあふれすぎる程ある、子供の動き子供のポーズはそのまゝ、それでも可愛いものである上に服裝の形や色で變化をつければどんなにでも人形をみるような可愛さの遊戯は出来るのである。私共は此頃洪水のように多方面から流れ出る遊戯を我が幼兒達の爲に何の尺度を以て取捨するか。私共にはまづ身體教育としての科學的組織系統のある、尺度が必要なのである、けれど私共は手近にそれを

持てゐない、或體育専門家に問ふたら「幼兒の事は私はしらない」ミ云はれ「赤ちゃんの體操は？」ミきいたら「本（ドイツ語）にある」ミ云はれ其後婦人雜誌で嬰兒體操の仕方だけは紹介されたがそれが幼兒期にはいかになるべきかは示されてゐない。ミ云て私共日々子等ミ遊ぶ者は尺度がないから遊戯をしないといふわけには行かない。さしあたり跳躍のあるもの、かけまわるもの、手の運動はなるべく大きいもの、そして幼兒にし易くわかり易く、喜ばれるものをえらんでゐる。けれどそれが上記の尺度にさうあてはまるか私共は常に長い間知り度いミ希てゐた所である。それ故先生の「科學的基礎の上に立脚した點が乏しい」のお言葉を「ほんさうにさうだ〜」ミひしく思はせられる。

よい處を指摘して下さつた事を深謝するミ同時にまことに勝手なお願ひかもしれないけれど「身體教育としての科

學的組織系統づけられた幼児の運動がいかなるものであるかに就て他日是非宮田先生のお話を願へるなら此紙上に承りたく切望する。

「幼児と日光浴」の題の下に、めぐみ幼稚園のお子さん方の幸な御様子を伺て大層愉快に思ひました。ここに私共の幼稚園のように、十月から翌年三月まで陽のあたらない運動場を持って居りますものは、日あたりのいゝ芝生のあるひろくした園、冬でも裸になれる設備まである所をみんなに子等の爲にいゝだらうと想像します。私達は四月から九月までのよく陽のあたる間だけ使て、後の半年は小學校庭の陽あたりのいゝ處、屋上又は園外へ出て、明治神宮外苑の芝生へミ陽なたを求めてあるきます。陽なたであそびまわればこちらから云はずも丈夫な子等は上衣をぬぎはじめます。よく十一月の晴れた日に上衣をぬいで、枯芝の上で、角力をまつたり轉がつたり外苑のかへりに子供等は大方上衣ミバスケットを持つて頬を眞赤にしてゐます。裸、はだしも暑いうちは出来るだけ奨励してゐますが、めぐみ幼稚園のように冬まで出来るようになって居りません、私

共は幼児のかうした身體の方面に、此時期にしくはない大切な事を何かし残してはゐないでせうか、かういふ幸な幼稚園の御様子を伺ふにつけてさう思ひます。

「自動車利用の園外保育につきて」の題の下に、お江戸日本橋こいはれる都會の中央の城東幼稚園で都市幼児の爲に其園外保育について幼児を自然へつれ出す事に就て、ごに其處の先生方が苦心をされ努力をしていらつしやるかを承り心から御同情し敬服致します。一口に外に出るご云ひんなますきた易い事の様でも、眞直に向いて歩けない子、蟻一匹に立止る子等をしかも多數ご一人ご一人に、大小の心づかひに其の上一回の經費を少くして幾回も出ようとする事は一通りの御苦心ではありますまい。一足出てもゴーストプごいふ激しい交通の場所であり商業中心地である日本橋で、春秋の遠足以外に七回もお出かけになつたのは、ほんごうに御努力の結果ご思はれます。脇谷先生の御希望として終りにおのべになつてある都市幼稚園の爲の郊外敷地ご交通機關の利用、眞當に此問題は私共都市幼児の教育にたづさはる者が全力をあけて是非實現したい事であります。

「幼児教育にも一業恵心主義が必要」の題の下に、牛島先生が幼児教育振興の必要を叫んで居られますが、私のやうに、自然から遠ざけられた都市幼稚園に居ります者には、都市幼児なるが故に二重に幼児教育振興の必要を痛感して居ります、文化の過重を申しますが、成人のうける文化の恩典

を（その爲に幼児としては必要な自然からますます遠ざけられ）逆にかうむつてゐる都市幼児の爲に、私は都市幼児の幼稚園義務制を叫び度いと思つて居ります、六六市長會議でも大都市の特別都制が問題になつてゐる様です、國家は今非常時に際してゐます、次代の國民の基礎教育の爲に、幼児教育又幼稚園教育は、その内容にも又教育行政にも一躍革新の必要が大いにあるのではありませんか。「最後に一言し度きは」にて先生は主任保姆の園長を援けて責任を果す意氣不充分を申されました、自分の事は自分にはわからぬ事が多々あります、何卒今後も此の様に御指示さすれば自ら顧みて一層努力を致す覺悟であります。

私共は十一月の健康週間を目前にひかえて、より健康號

を讀ませて頂いた事を深く感謝致します。健康は秋から冬へ、そして芽生えの春へみつゞきませう。やがて木枯の吹く頃、私共はかよわい幼児の皮膚を護るに同時に、遙に先生方ご同志の方々の御健康を祈ります。

（六四頁より續く）

居ります。これは、ほんみに靜かな氣持ちで取扱ひ度い存じます。大勢でするよりも、全體を幾つかに分けて少人数でする方が、氣持ちも落着いていゝ様に存じます。

以上はほんの一、二の例に過ぎませんが、實際に致して見て、子供に教へられながら、自分の組の子供に合ふ様に、これでも色々工夫致しました。適當な題材を選び、折角のいゝ材料をその幼稚園、その子供等に合ふ様に生かして使ふのこそ、私等の役目で御座いませう。

何かの御参考になれば幸せに存じます。

子供の自由表現に就て

附屬幼稚園 村上露子

所謂幼稚園遊戯も、從來の不自然な大人の模倣から開放して、純朴な子供の氣持ち其の儘を表し度いもので御座います。子供の豊かな想像力を生かして、自由表現の餘地を與へたなら、もつこ子供らしい世界が發展し、どんなに興味深く、樂しみながら、然も一杯の力を出して致す事で御座いませう。

今夏の戸倉先生の新鮮味の溢れた遊戯講習も、殊に子供の自由表現に重きを置かれました。其の中で、早速子供と一緒に致して見ましたものゝ一つ二つを御紹介申し上げます。

年少組の子供で、四月以來、少し宛そう云ふ機會を與へて參りましたが、實際に取扱つて見ますと、案外な事が出来なかつたりして、大人の考へ通りには必ずしも行かない事が御座います。其の點、指導の方法として考へる餘地が

御座いませう。子供が自由に表現するに至るまでの導びきとして、きまり惡がつたり、尻込みしたりせぬ様、習慣付ける必要があるか存じます。最初は最も子供の生活に關係の深いもの、親しみのあるものを扱ひます。そして、子供にもすぐに表現出来る様な、やさしい、簡単なものから致しました。

「動物園の象」。

は誰れでも出來ます。動物園で見た象を先づ思ひ出させて、次に鼻だの、太い脚だの、歩き方等を思出させます。「好きな所を、のそ／＼象になつて歩ませう」。ご申しますと、喜んで床の上を這ひ出します。長椅子を續けて、其の上を一人宛渡つたりして、もう汗びつしよになるまで致しました。(床がきれいに拭いてある事を條件として)

此の他動物は殊に親しみが多く、子供等は表現し易いら

しく、兎さか、龜さか、狸、あひる等々、したいものを聞いて致しましたが、よく特徴を表す様になりました。(曲は其の氣分に合つたものなら何でもいゝかき存じます)。こゝで、兎さか龜の競争をするのもなか／＼面白う御座います。外でもよし、内でもよし、一列宛に縦に並べても、又は二つの圓になつても、個人競争でも、團體競争でもよろしく御座います。龜同士でも、兎同士でも、代り／＼にでも、又其の他のものでも、ちよつと工夫すれば面白く遊ぶ事が出来ます。

「来い／＼」。

は、一つの事から聯想されるものを取扱つたので、これは初めから表現するものゝ順序が定まつて居ります。講習でお教へ頂いた時には、先づ皆手を連いで一曲の終りまで歩き、お父さん、になる人が、「お父さん」を表現して真中に出て来る。他の者はそれを拍手して見て居る。曲が終るゝ又連手して歩き、次にお父さんはお母さんと呼ぶ。呼ばれた人はすぐに出で、「お母さん」を表はす。……云ふ様にして、お母さんから子供、子供から犬、猫、鼠、其の

後一つは自由に、又お父さん……云ふ順序で繰り返へすので御座います。これなら子供にも簡單に出来ると思つて致して見ました處、七つの順序通りにするのが六ヶ數く、幾度しても途中でめちやく／＼になつてしまひます。呼ばれた時、ま／＼して居たり、一人するのが嫌だつたりで、だめになつてしまひます。それで、少し様子を變へて試みて見ました。全體の子供を二組に分けて、(便宜上、男女兒に)初めは全部の男兒がお父さんになり、大體二曲の中に好きな處を歩いて参り、其の間女兒は腰掛けて手を打つて見てゐる。次に、お父さんはお母さん(女兒)を呼びます。そうして二組の子供が代り／＼に出で行つては色々表現する様に致しましたころ、順序もすぐに覺えてしまひ、一人々々が、なか／＼それ／＼の様子をよく表して居ります。一人ぢや決して出来ない様な子供も、お父さんの仲間に入つて、そつくり返つて歩き乍ら、煙草等吹かして居るのも見ます。犬さ猫さ鼠の區別も、とても上手に致します。だん／＼馴れて参りますさ、こゝ云ふ様にして、一人宛でも出来る様になりました。

「たねまき」。

「云ふのは、丁度秋晴れの一時を、青空の下でゞも出来る様な、極く、自然な趣のあるもので御座います。お百姓が、畠を耕し、種を蒔きだんぐ世話をして、花が咲き、實が成り、やがて收穫するまでの様子を表したもので、随分いい題材がミ存じます。部屋の一角を畠に定め、子供等にお話しをして、順序や動作を考へさせました。お百姓になりたい人に、種になり度い人、蝶々になり度い人を初めに分けて見ました。先づ蝶々だけを残して、他はお百姓も種の人と一緒に、畠を擔いで畠に行き、一生懸命に耕します。いゝ頃に引揚げて、元の場所に歸り、種を持つて又畠に來ります。元の場所に誰れか一人居て、種だの、お道具等を皆に渡してあげる事に致しました。其の方が實際の感じによりよく出る様で御座います。バラ／＼と種を蒔き初めるミ同時に、種になる子供は小さく伏して、種を表します。丁寧にも其の上から土を被せたりして、水を取りに參ります。其の間に、種は少し宛芽を出して來ます。バケツや如露に水を入れて持つて來ました。猿蟹合戦のお話しでも思出し

てか、「早く芽を出せ柿の種……」等ミ云つてゐる子供も御座います。だんぐ／＼芽は大きくなつて、やがて花を咲かせます。蝶がひら／＼飛んで參ります。其の中花も終りになつて、實を結びます。お百姓は、鉢だの籠だのを持つて、實を取りに來ます。——そこまでは、誠に自然の中に運びましたが、其の後、木になつて立つてゐる子供のそこから中から、やたらに面白がつて實を取りますので、中には其の子供ミふざけたりして、折角の今迄のいゝ氣持ちを毀してしまひました。それミもう一つ、實を取つて、皆歸つてしまつた後の木は、まるで冬枯れの様な感じがして、變なもので御座います。何ミかならぬものかミ、戸倉先生に御相談申上げましたところ、「實を取る時には、木になつた子供も皆一緒になつて、假想の實を取つたらさうか、そして、歸る時も、皆一緒に引揚げてしまつたらいゝでせう」。この事に、成程ミ、早速に子供にもよく話して其の通りに致して見ました。今度は氣持ちよく出來ました。又其れから何度でも繰返す事も出來ます。今までの中で、一番子供等は好きな様で、この曲を弾きますミ、目を輝かして、喜んで

「保育の眞諦」を聴きよて (三)

京都市 平安女學院保育科 大塚 喜一

前號で今夏のお話に就ての第一印象も云ふべき大體の感想を書かせて頂きましたので、これから實際の細かい一に就て皆さんに考へて行きたいと思ひます。こうして考へて行きます中心はいつも前に申しました「保姆のほたらき」をねらつてゐるのであります、全體の有機的統一といふ事をいつも念頭に置きつゝお話し各部分々々を見て行つてゐるのであることを特に始めて申しておきます。

註文中(一)内の數は九月號の參照頁數と御承知下さい。

教育に於ける目的と對象との

相關々係に就て

先づ、「目的に熱心であるか、對象に忠實であるか」を對照して話され「幼稚園保育」云ふものゝ特質は、教育の色々な種類の中で、目的と對象との關係に於て何處迄も對象本位に計畫されてゆくべきものである」(二六)と斷定せられた

所はよくわかりました。それから進んでこのお話の全體少くも第一章の全體の終り迄ずつと聴いてもう一度讀み直して見ました時に、保育の眞諦に至り得るにはこの對象本位の立場に立ちつゝこゝへ教育目的がさういふ風な關係に於て結びついて來るものかと思ふのであります。(一五—一六頁三〇頁三四頁等その内容の細かな所は本文にて段々解説してゐられますから皆さんもおわかりの事と思ひますが、こゝをずつと突進めて考へて來て「幼稚園に於ける保姆の位置」に迄來た時、「所が、目的は目的でありますけれども、保育眞諦で相手を或る所迄進め、それからそれへこやつて行くならば、實に細かく氣が付かなければならないのであります」。(三四)と云はれてゐます所は、目的といふものが保姆の心遣ひの中にさういふ風に入つてゐるのでありませうか。その直ぐ次に書かれてゐます所は、子

供本位に行かなければならぬところからハッキリ云つてゐられる保母の努力であります。若しこれ少し違つた意味で、目的をも考慮に入れながらも幼児の自然なる生活形態を壊さないやうにさせるならば、そこに單に「自然」を「自由」を尊重するといふ一通りの苦勞以上に、更に一層細やかな保母の心遣ひが必要となるのですかとお尋ねしたいのであります。丁度一六頁の「幼児の生活」の分類の中で……によつて分たれた後の³、⁴に迄進んで参りました時に、目的を對象との關係はさういふ風になつて來るのであるかといふ事を、このお話から充分に教へられたいと思ふのであります。

『生活と生活で生活へ』(一〇)を云はれた御言葉の意味を説明してゐられる所に先生の中心思想を學び得ると思ひ、今考へて居ります問題を念頭に置いて反復熟讀して見ます。目的を、對象へ、その生活に忠なる意味に於てさう持つてゆかうか。云ふ所で、我々が親が子を思ふ様に眞に子供に忠實な没我的態度で望んで行つた時は、先づ相手の生活の自己充實を充分にさせてやたりいさいふ心が自然の人情として湧いて來ると思ふ。従て、豫め引込ましてあつた教育

目的をそこへ持ち出すのではなくして、對象に忠なる一本調子の一元的な立場で進んで行つた時に、當然幼児の生活の自己充實に信頼して出來るだけの之を發揮せしめる様に努力しやうといふ態度になつて來るものと思ふのです。(一)で先生は「信頼」をいふ語を繰返して述べてゐられますが(二六)これは實に保母の態度として大切であると思ひます。それを立場を變へて目的の方から見れば、對象の現狀に最近接の直接目的として「幼児の生活の自己充實」つまり「生活へ」をいふ事になるのでせう。幼稚園令第一條の中にある「心身ヲ健全ニ發達セシメ」をいふ事は幼稚園のみならず小學校に於ても重要な目的の一たるに相違ありませんが、小學校に於ては此目的の爲に特に體操を其他の學課を兒童に課するに比して、幼稚園に於ては幼児の未分化の生活を尊重する立場から先づ幼児自身の生活の自己充實をいふ事を目的とする事になる。斯様に考へて來ますと、目的は對象に内在するものであつて、幼児の場合は潜在的ではあるが年が長ずるに従つて顯在的となるを考へ得られるのでせうか。(本誌第三十卷第五、六、七、十號「兒童を教料課程」参照)。

福島政雄先生はその名著「日本女子教育學」に於て「親心
 子心の融和」より教育を説き起され、一轉して教育の目的に
 就て次の如くに記して居られます。

「勿論、教育といふからには、そこに一定の目的が考へら
 れなくてはならない。被教育者のもつてゐる身體及精神
 を十分に發達させること、社會國家の一員として有爲有
 能な人間たらしめる事等は、當然その目的として考へら
 れる事である。そしてその目的を遂げる爲に色々な計畫
 がめぐらされる。何を教へたらよいか、さう教へたら有
 效かミ種々に討究されて、最もよい手段によつて最も有
 用な事が教へられねばならぬ。しかも教育が最も効果を
 あげるのは、教育者がこの目的の中にあつてその目的を
 忘れ、この手段の中にあつてその手段を忘れ、自らが教育
 者であるといふ事すら忘れて、たゞ被教育者ミ、一つ心にな
 つて働く時にのみ、その實效を擧げる事が出来るので
 ある。」

(同書五乃至六頁)

最後に倉橋先生に特にお尋ねいたします。先生が本誌に
 始めて巻頭の言を掲げられました時(昭和六年一月號)「人

間教育」ミ題し

「人間を人間へ教育しつゝあるといふことは、我等の、一
 日も一刻も忘れてならない事である。又此の本念に於て
 のみ、我等の日々の業務が、ほんさうに意味づけられる。
 或は、この故にこそ我等の努力が生命づけられるといふ
 ものである。」

教育の必要性を、それらの方面ミ部門ミに於て、い
 ろゝくに主張する論もある。しかし、我等の責任感の出
 発も歸結も、此の教育太本の自覺によつて、始めて嚴か
 である。幼兒ミ俱にあそび暮しつゝ、此の人間教育の嚴
 かさに生きるもの、それが幼兒教育者である。」

ミ述べられました所から見れば、今迄述べて來た目的ミ對
 象ミの相關關係の問題は如何に思念せられ實踐せらるべき
 で御座いませうか。「一刻も忘れてならない」ミの仰せに副
 ひ得る底に身ミ心ミに體して幼兒ミ俱にあそび暮すには、
 さうしてもこゝの所がよく體認されてゐなければならぬ
 ミ思ひますので、御教示の程特にお願申上ます。

(昭和八、九、二二)

今月の草花と春の用意

大 岩 金

秋も次第にたけて、うら淋しい景色の中に咲き匂つてゐる秋草も、夏以來咲き續けの草花も今しばらくの眺め、心ゆくまで觀賞もし花後の始末も致しませう。

先づ今月の覇をなすものは菊花であります。その外、觀葉植物としてアルタナンセラ、コリウス、イレシ子等はえもいはれぬ紅葉、黄葉それ／＼の美をあらはして居ります。又トレニアの群生してゐる花壇はもな／＼に美事であります。先月に續く眞赤な花のサルビヤ、赤、黄、絞りなごのケイトウ、ハゲイトウ、丸く育つた草姿の面白く紅葉したハナホホキダサ、或はコスモスなご種子交りながらもまだ捨て難い眺めであります。また第二回目開花のダーリアは初夏のそれにもまさる花色を見せ、濃艶なカンナもまだ人目を引いて居ります。眞白いスキートアリッサム何ごいふ長い開花でせう。春以來時にはもう終りかと思はれるばかりに衰へる事もありますが、また何時の程にか勢力がつ

き幾回もなく咲きかはり、全面白毛氈を敷きつめたやうであります。尙その外に開花期の長い花として百日草、千日草、是等もまだ次から次へに花をつけて居ります。半ば種子になつたカカリア、ハルシヤギク、ムギワラギク、マンジュギク等も鋏を手にした人々をよび止めて居ります。

既に觀賞の價値のないもので採種用に殘してありますものは申すに及ばず、今尙開花してゐる草花のうちでも、種子の熟して居りますものは觀賞のかたはら機を逸せず採種しておく事が必要であります。殊にサルビヤは寒さに弱く、自然に落ちた種子ではほんご發芽しないものであります。

又觀葉植物のアルタナンセラの類も宿根性草ではありませんが、不堪寒性でありますから、是等は繁殖用として豫め霜害におかされぬうちに鉢にぎり温室内に取り込む必要があります。

次に來る春の花園を賑あはす爲にまだ用意出來てゐない

所は出来る限り早くすませたいものと思ひます。

そのうち今回はなるべく手数のかゝらない宿根性のものに就て簡単に述べたいと思ひます。

花園の縁取り用のもの

一、ヒナギク

餘程古くから栽培されてゐるもので、誰にも馴染の種類で赤や白の小さいまりのやうな花が極く矮性の茂り合つた葉間から咲き出てる状態は誠に愛らしい感じのするものがあります。現今では是等の小花ばかりでなく大輪種で色の淡色のもあります。然して唯に縁植に適するばかりでなく、毛氈花壇なぎに植ゑ出して一層人目を引くものであります。

繁殖は播種によりましても株分によりましても容易であります。翌春五月頃から夏頃までずつこ長く咲きつゞけるものであります。

二、モツスフロツクス

常緑の矮性種でその枝は常に地を匍匐し極めて株張りのよいものであります。開花は三月下旬から四月中續き、五瓣花の小花で花色にも淡紫、牡丹色なぎ種々あつて誠に可

愛らしいものであります。

繁殖は株分又は挿芽による事が最も普通であります。秋に地に擴がつてる匍匐枝を切り取ります時は、その地に接した所々から根を下してゐる事が多々ありますから、是を適宜の長さに切り是を一株／＼として植ゑ付けておきます時はやがて始めのやうな立派な一株になります。その後は時々油粕の腐汁なぎの液肥を施しますれば、四時綠葉が茂り縁植用としては極めて恰好なものであります。

三、プリムラポリアンサス

陽春四月中下旬群生してゐる矮性の葉間から花梗をぬき出しその先に十數個の櫻花に似た小花を開いた状態はさながらに春の氣が地に満ちた感があります。濃淡の赤、黄こり／＼に植ゑれば色々變つた模様も織り出されます。

栽培は容易で繁殖は秋季株分による事が普通であります。そして寒さにはなかく、丈夫であります。大抵の場所ならば霜除の必要はありませんが、葉の密生してゐる點から、夜盜蟲の潜在する事が屢々ありますので、被害の大きな時はほんの葉を網の目のやうにする事さへありますから初夏と秋季の發生期には特別の注意をして驅除しな

ければなりません。

四、アルメリア

和名を松葉小櫻云つて居りますが、名の如く葉は松葉に似て花は櫻花を小さくしたやうで、是が多數集つて一花梗について居ります所は丁度簪のやうに見えますので又の名をマツバカンザシとも呼んで居ります。極短い株張りのよい葉群の中から花梗をぬき出し五月から六月にかけて長期間濃桃色の花を咲き揃へました状は是又他にゆづらぬ美観であります。

栽培法もさまでむづかしくなく、秋季株分によるのであります。是は支根が少くない爲、この點に注意する事。夏季の灌水を怠らない事が栽培の要點であります。

その外、縁取用としてはリボングラス、ギボウシ、タチテシモンドウなどがしばしば用ひられ是等は株分に依つて繁殖する事が出来ますし、白丁花は挿木に依つて思ふ丈繁殖させる事が出来ます。

次に縁取の出来ました花園の中に植え込まれる宿根性の草花を申しますれば、

花名

繁殖法

デキタリス

株分又は播種

シヤクヤク

芽分

宿根ケシ

株分

シヤスターデージー

株分又は播種

西洋オダマキ播種後三年目から開花

ストケシア株分、播種したものは三年目から開花

ペントステモン挿木又は株分

ミヤコワスレ 株分

タチアホヒ 播種後三年目から開花

球根類ではチューリップ、ヒヤシンス、水仙類、クロッカス、オーニソガラム、トリテリア、シラン、イリス類などが主なものでありまして、是等を夫々色の配合、花と葉との調和、栽植の模様工夫等を巧に致します時は、やがて来る春にはどんなにか美しい花園が眺められます事。要は一時も早くして頂きたい事でありませう。寒くなりましては普通ならば除霜の設備を要さないものも亦除霜してやらなければならぬやうになる事が屢々あるのであります。

雜 錄

愛國婦人會幼兒保育所

六八

主事 馬場 文雄氏

須賀川町幼兒保育所保姆 根本 コマ氏

梁川幼稚園長 大塚 孝順氏

同 園保姆 大塚 政江氏

會津幼稚園保姆 高橋 ナミ氏

同 五年以上勤續(十一人)
平町清風幼稚園長 中村 月城氏

外園長三人理事二人保姆五人

(ロ)在職五年以上にして退職者表彰(五人)(省略)

右表彰終るや元縣會議長田倉孝雄氏の祝辭あり、受賞者

松山政治氏之に答辭を述べらる。

5、協 議

(一)表彰規約條項改正の件 若松保育研究會提出

(二)常設保育所の職員に對する無試驗檢定の資格並に

鐵道乘車賃割引の件 高田町幼兒保育園提出

(三)表彰規約中に會員以外の團體、個人等の保育功勞

を表彰する條項加入の件 同上 提出

6、研究題

(一)幼稚園と託兒所との區別、見解如何

高田町幼兒保育園提出

(二)幼稚園の朝の保育の狀況如何

◎福島縣保育會第二十 四回總會概況

一、期日 昭和八年十月一日(第一日)

二、場所 二本松幼稚園

三、實地保育參觀

四、會 議

1、開會の挨拶 2、國歌合唱 3、會務報告

4、表彰 (勤續五年の後、五年を加ふる毎に表彰のこと)

(イ)在職二十五年以上勤續(一人)

郡山幼稚園長 松山 政治氏

同 二十年以上勤續(二人)

郡山幼稚園保姆 松山 一子氏

同 十五年以上勤續(二人)

須賀川幼稚園理事 星 樹藏氏

同 同 園理事 岡 儀三郎氏

同 十年以上勤續(五人)

白河幼稚園提出

(三) 雷を呼ぶ言葉の取扱方如何

須賀川幼稚園提出

7、談話題

(一) 保育事業の統一に關する件に就て

郡山幼稚園提出

(二) 乳幼児榮養週間に於ける各園の實際狀況承りた

福島幼稚園提出

(三) 幼稚園在園時代に涵養すべき幼児の道德的習慣如何

二本松幼稚園提出

五、保育講習會 十月二日(第二日)午前九時より午後三時

まで

1、科目。

『幼稚園に於ける手技並に幼児の繪畫に就て』

2、講師。

元東京府師範學校附屬幼稚園保姆

卜部 た み先生

以上

六、參加幼稚園

福島幼稚園、二本松幼稚園、猪苗代幼稚園、若松幼稚園、

郡山幼稚園、會津保育園、博愛幼稚園、會津幼稚園、白

河幼稚園、梁川幼稚園、中村幼稚園、梁川中央幼稚園、

須賀川幼稚園、昭和幼稚園、喜多方幼稚園、原町幼稚園、

宮城縣白石幼稚園、三春幼稚園

須賀川町幼児保育所、愛國婦人會幼兒保育所、郡山婦人

會幼兒保育所、郡山保育園、高田町幼兒保育所、喜多方

道光託兒所、小野新町兒童遊園、福島隣保館保育部、船

引幼稚園遊園、會津婦人會託兒所、

以上 二十八ヶ所七十五名

外ニ縣社會課主事照沼哲之介氏外十七名 合計九十三名

◎福島縣社會事業保育

第三回懇談會

福島縣保育會に出席したる社會事業の保育従業者はその第

一日の夜分に於て第三回の會合をなしたり、當夜の出席は、

縣社會課長今井清武氏並に同主事照沼哲之介氏をはじめ保

育所の所長保姆三十名にして左の如き協議、研究を遂ぐ。

(一) 縣よりの諸問案

『保育所に於て幼児保健上特に留意すべき事項如何』。

(二) 談話題

(一) 保育所の幼稚園經營化に關する件

郡山婦人會幼兒保育所提出

(二) 常設保育所に農繁期保育所を附設する方法如何

同所 提出
(3) 季節保育所の施設標準に關して

同上 提出

(4) 託兒所の給食實施方法に就て

須賀川町幼兒保育所提出

(5) 中央社會事業協會の共濟組合加入方の件に關して

郡山婦人會幼兒保育所提出

等にして、極めて熱心に談合し、夜十一時別れを惜しみつ散會したり。

◎第四拾回關西聯合保

育會順序

日時 昭和八年十一月五日午前九時開會

會場 神戸市湊東區楠町六丁目 神戸市立第二高等女學校

一、一同着席

一、開會の辭

一、國歌合唱

一、祝 辭

一、會務報告

神戸市保育會長

兵庫縣知事
神戸市長

一、議 事

1 建議 案

一、保育の資格向上並に待遇改善に關し左記事項を其筋に建議すること

一、幼稚園保姆の教養程度を小學校本科正教員と同等以上たらしむること

二、幼稚園長及保姆を視學等に任用するの途を開くこと

三、幼稚園長及保姆の若干數を委任待遇となすの途を開くこと

四、幼稚園保姆の月俸額を小學校本科正教員に準ぜしむること

五、幼稚園長及保姆に對し年功加俸を給すること

神戸市保育會提出

2 協 議 題

一、堺市保育會加入の件

二、保育功勞者表彰及保育に關する經驗記編輯の件

3 談 話 題

一、各市に於ける幼稚園の標準設備について承りたし(吉備保育會提出)

二、幼稚園と家庭との連絡方法中體育又は德育に關し母親教育に貢獻大なりし實際につき承りたし(大阪市保育會提出)

三、都市の幼稚園に於て特に保育上考慮すべき點(京都市)

保育會提出)

四、自由遊びの取扱方につき承りたし(名古屋市保育會提出)

五、幼稚園に於ける遊戯の基本的態度について承りたし

(神戸市保育會提出)

(休憩、晝食)

一、講演

日本人教育機關としての日本幼稚園の根本任務

榎崎 淺太郎氏

一、研究發表

1、幼児に實驗したる紫外線療法に就て 名古屋保育會

2、フォルケルト氏新ライプチヒ恩物の實

驗的研究

京都市保育會

3、幼稚園に於ける郷土材料の取扱に就て

大阪市保育會

4、水遊びに現はれたる幼児の性向調べ

吉備保育會

5、兒童の自由遊戯の採集

神戸市保育會

一、遊戯交換

三羽の蝶。鳴子と雀。

吉備保育會

電車と汽車。れぎ坊主。

名古屋保育會

飛行機。兵隊遊び。ひなつばめ。水兵。

大阪市保育會

皆でまわして。凱旋行進。

京都市保育會

兵隊遊び。僕は水兵。

神戸市保育會

一、閉會の辭

以上

神戸市保育會

【備考】

一、徽章

白色 來 寶 綠色 京都市會員

赤色 大阪市會員 トキ色 名古屋市會員

水色 吉備會員 黃色 堺市會員

藤色 神戸市會員

二、會場への案内

市電楠町六丁目又は荒田町三丁目停留所下車のこと

三、御晝食は御自御持參下さい。但し「パン」を賣らしむ

る準備位は致します。

四、御來會の際は會名入の御名刺を受附へ御差出し下さ

い。

尚ほ、この度の保育會には十月二十七日現在に於て會員申込
数が千百七名、傍聴者九十八名の由にてその盛會の程が偲ば
れます。委しくは十二月號に御掲載を願ふつもり。(編輯者)

第一編

東京女高師附屬幼稚園保姆 菊池ふじの先生 共著
 徳久孝子先生

幼児の
 ための
人形芝居脚本

脚本十種、此の人形芝居は常に幼児に新しい歡喜を以て迎へられる。巻頭寫眞オフセット七度刷舞臺裝置、及び同じく各種人形を收め、ホプリン布厚表紙本綴、體裁瀟洒。

第二編

膳 眞規子先生著

自然物おもちゃ

幼児保育上大切なお細工に於て、あらゆる自然物を利用し巧みに種々の形態を模せしむ。その數實に四百八十有餘種、敘説亦簡明、寫眞繪畫頗る多數。

第三編

東京女高師附屬幼稚園保姆 及川ふみ先生著

幼稚園の手技製作

著者は東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て實際指導し來たれるものを各學期各月に配當し之を統整し、以て各幼稚園託兒所等に於ける最も緊要なる手技製作の指導保育を遺憾なからしむるやう、直接手をとりにて導くが如く、親切に敘述す。

第四編

目白幼稚園園長 和田實先生著
 目白幼稚園保姆養成所長

實驗保育學

著者は我國幼児教育界の權威者にして、多年幼児保育の實際に任り、學術的に實際的に幾多の尊き蘊蓄が凝つて本書を成したるもの。小學校に於ける教育學の如く、實に幼児教育界に於ける教育學としての輝ける寶玉であり、最新の保育指導書である。

株式會社 丸貝館

本店 東京・田神・小川路・電話九三二八七番
 支店 大阪・區平野三町・電話本局一八三番

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ融出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ容員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價		廣告	
一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金參拾圓	金貳拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	金貳拾圓	金貳拾圓
拾貳冊送	料共	神田區駿河臺ノ三田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和八年十一月十五日印刷納本
 昭和八年十一月十五日發行
 幼兒の教育 第二十三卷 第十一號

不許複製 禁止轉載
 編輯者 倉橋惣三
 印刷者 柴山則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舎
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

德島女子 師範主事 永澤義憲先生著 四六判洋布裝 函入三一〇頁 定價 一圓八十錢 送料 十四錢

幼稚園教育の實際

各般の事項に亘る詳細にして體系ある實際指導書初めて成る！
新しい幼稚園、正しい幼稚園を本書に見よ！保母志望者亦必讀

* 幼稚園には幼稚園の意義があり使命がある。それは單に幼兒の保護に任ずる所でもなく、又況んや小學校の豫備に終始するものではない。本書は此幼稚園本來の使命に鑑み、永き經驗を實際に體系つけた稀に見る傑出した研究である

【内容抄】—緒論—一幼稚園の本質と使命・二幼稚園發達の史的概観（史的概観について・世界に於ける幼兒教育の發達・日本に於ける幼兒教育の發達）・三幼な兒の心理（心理的區分・幼稚園の心理・幼兒の心理）
—本論—一幼稚園保育の方法・二各項目の取扱・遊戲・唱歌・觀察・談話・手技）・三養護（保育目的と養護・養護施設・養護要目・養護上の注意）・四養方（幼稚園に於ける躰け・強く正しくすなほな兒・躰け方に對する態度及び注意・躰け方細案）・五年中行事・六設備（良き保育としての物的條件・法令上に示されたる設備・最低限度に於ける設備・七個性調査及び家庭との聯絡（個性調査と家庭調査・家庭との聯絡）
—餘論—一教科に於ける小學校との聯絡・幼兒生活の道德的特殊性と道徳教育・文字と書方教育・幼兒の數學教育・幼兒と國史・幼兒の理科教育・入學前に於ける體育・入學前の唱歌・五六歲兒の手工に就いて）・二保母のあゆむべき道（根本的存在としての保母・人としての保母・母としての保母・主觀的修養・客觀的修養）—以上小項目全部省略

幼稚園ばなし

長尾豊先生著 價一・八〇送料一・四

幼稚園の舞踊

石井小浪女史著 價〇・八〇送料〇・八

實物提示による幼兒に聽かせる話

久連松弘先生著 價二・三〇送料一・四

動作のやさしい唱歌

厚生閣編輯部編 價各一・〇〇送料各〇・八

厚生閣

東京電話九段五
麹町三三九
下町三三九
六番八〇〇
番八〇〇

奈良女子高等師範
學校教諭兼助教

長田

博先生新著

四六版二百餘頁 定價一圓八十錢
插繪多數入美本 送料十二錢

幼稚園 小學校 說話遊戯

特色

一、低學年新體育の說話遊戯とは 兒童の見た物や動物や事柄を、必要に應じて動作化さしめる遊戯。
二、劇的發表能力向上と常識養成 低學年體育上身體各部に好影響を與へ、自由な形の發表能力を養ふ。
三、外國事例に基き新に研究さる 讀めばすぐ分る實際篇を四十篇載せ、誰にもすぐ實施出来る様にす。

【次 目 容 内】

第一篇 說話遊戯の目的
 一、實施上の注意
 (一) 說話遊戯の本質並に
 目的 (二) 材料選擇上の
 注意 (三) 實施上の注意
 第二篇 說話遊戯の實際
 (一) 遊園地に遊ぶ (二) 春が來
 (三) 郊外へ遠足 (四) カ
 (五) 星條旗を作る
 (六) 玩具屋の店 (七) 飛行機
 (八) 花摘み (九) 春の遊び
 (一〇) 遊園地の平日 (一一) 自
 動車 (一二) 百姓さんの日々
 の仕事 (一三) 五月姫 (一四) ク
 (一五) 乗りもの々々
 (一六) 掃除 (一七) 洗濯 (一八) 動
 物の真似 (一九) 鏡物 (二〇) 海
 岸にある風車 (二一) 海水浴
 に行く (二二) プール (二三) 山
 遊び (二四) 小屋を建てる (二五)
 船出 (二六) 小屋を建てる (二七)
 材を伐り出す (二八) 火
 事 (二九) 風 (三〇) 西洋のお
 遊び (三一) 武道 (三二) 武
 道 (三三) 武道 (三四) ス
 雜祭 (三五) クリスマス
 リー (三六) サンタ・クロ
 ズ (三七) クリスマスの玩
 具 (三八) 雪合戦 (三九) 冬
 の遊び (四〇) 職業の色々
 (四一) 陸上競技 (四二) 兵隊
 の遊び (四三) 武道 (四四) ス
 ポーツの色々

版三十
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價三〇〇 送〇・六
幼稚園の理論及實際

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價二八〇 送〇・六
幼稚園の經營

版五
 大阪家なき幼稚園長大橋橘詰良一先生著 價二五〇 送〇・六
家なき幼稚園の實際

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價三〇〇 送〇・六
保育用教育

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價二〇〇 送〇・三
託兒所教育法

版六
 東洋大學教授 關寛之先生著 價三〇〇 送〇・六
高等兒童心理學

東大 京阪 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・振替東京一〇三〇七番
 大阪市南區內安堂寺一丁目二番八地・振替大阪三九三五七番



たのしい、たのしい

クリスマスとお正月

面白い手技、今から用意して待ちませう

- ◇ストッキング用織紙——色美しい純日本紙の織紙の香下。 五十組 金七十銭
- ◇星——金紙と銀紙とを打ち抜いた輝く星、大小二種。 一箱 金三十銭
- ◇格の葉——濃緑とヒヨ色の葉、紅い圓い實を添へたもの。 一箱 金三十銭
- ◇お誕生祝の鯛——鯛の形に打抜いた美しいカード。 百枚 金二圓八十銭
- ◇後藤運葉紙——菊・楓・松の三種、色各種、連繋裝飾用。 一箱 金三十銭
- ◇國旗と日の丸・提灯と日の丸——裝飾用、何れも百組入。 一箱 金十八銭
- ◇カレンダー懸星形——原紙銀紙十六種の星形裏紙、應用の途多し。 五十枚 金二圓五十銭
- ◇羽子板材料——桐白木、之にお細工意匠をいたします。 十本 金一圓
- ◇風の材料——手技とて面白く、和紙、竹骨で一組。 五十枚 金一圓
- ◇獨樂の材料——幼児自身が製作意匠し廻らせるもの。 五十個 金一圓
- ◇カルタ——子供カルタ(三〇錢)・モモトラウカルタ(二五錢)・健康カルタ(十五錢)等幼児専用の面白いもの。

館ルベール社株式

知 通 御

本店 東京・神田・今川路・電話九三二八(33)番
 支店 大阪・東區後町五ノ六・電話本局一八三番

大阪支店左記に轉移を
 相變ずら引おきを

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和八年十一月十二日印刷納本
昭和八年十一月十五日發行

定價三拾五錢